

薬局と医療機関の連携に基づく取組事例集

令和3年12月1日

大阪府健康医療部生活衛生室薬務課

事例集について

薬剤師や薬局は、高齢化が進む中“地域包括ケアシステム“を担う一員として、地域の実情に応じ、医師をはじめとする他の職種や医療機関等の関係機関と情報共有しながら連携し、服薬情報の一元的・継続的な把握や、地域医療における患者の治療等に関して安心して相談できる身近な存在であることが求められています。

本事例集は、岸和田市及び堺市をモデル地域として実施した「令和2年度薬局と医療機関等との連携による薬局機能強化事業」のうち、薬局薬剤師が地域のチーム医療の一員として介入し、処方内容を提案した事例や退院後に患者フォローした事例の中から、好事例を抜粋し取りまとめたものです。

患者の生活状況や多職種の関わりについて記載し、どういった経緯で薬局が介入することになったのか、療養環境、問題点、患者背景、処方内容、服薬管理、経過、参考文献について、ポイントを取りまとめていますので、勉強会等の資料としてご活用ください。

また、本事例集作成にあたり、事例の収集を岸和田市薬剤師会及び堺市薬剤師会にご協力頂きました。

*本事例集は、特定の個人を識別することができないように加工しております。

◇「令和2年度薬局と医療機関等との連携による薬局機能強化事業」の詳細については、大阪府のホームページに掲載しております。

<https://www.pref.osaka.lg.jp/yakumu/yakkyokutorikumi/vision.html>

〔目次〕

◆薬局薬剤師から医療機関へ処方内容について

提案した事例 3

◆薬局から医療機関へ退院時服薬情報提供書に基づく

患者フォローをした事例 34

薬局薬剤師から医療機関へ
処方内容について提案した事例

| | |
|------------------|---|
| 事例1：残薬があり、提案した事例 | |
| 療養環境 | 慢性期 |
| 問題点 | コンプライアンスの低下 |
| 患者背景 | 89歳 女性 主症状：認知症（初期）、高血圧 |
| 処方 | <p><介入前：13剤> ベラパミル塩酸塩錠 40mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 エルデカルシトールカプセル 0.75μg 1回1カプセル（1日1カプセル）1日1回 朝食後 ラベプラゾールナトリウム錠 10mg 1回1錠（1日1錠）1日1回朝食後 カルベジロール錠 2.5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 スピロラクトン錠 25mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 ジゴキシン錠 0.125mg 1回0.5錠（1日0.5錠）1日1回 朝食後 エドキサバントシル酸塩水和物錠 60mg 1回0.5錠（1日0.5錠）1日1回 朝食後 モンテルカスト錠 10mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 夕食後 オロパタジン塩酸塩口腔内崩壊錠 5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 夕食後 アンブロキシオール塩酸塩徐放口腔内崩壊錠 45mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 夕食後 モサプリドクエン酸塩錠 5mg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝夕食後 ミノサイクリン塩酸塩錠 50mg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝夕食後 経腸成分栄養剤液 1回200mL（1日200mL）1日1回 医師の指示通り</p> <p><介入後：10剤> ベラパミル塩酸塩錠 40mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 エルデカルシトールカプセル 0.75μg 1回1カプセル（1日1カプセル）1日1回 朝食後 ラベプラゾールナトリウム錠 10mg 1回1錠（1日1錠）1日1回朝食後 カルベジロール錠 2.5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 スピロラクトン錠 25mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 ジゴキシン錠 0.125mg 1回0.5錠（1日0.5錠）1日1回 朝食後 エドキサバントシル酸塩水和物錠 60mg 1回0.5錠（1日0.5錠）1日1回 朝食後 モンテルカスト錠 10mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 夕食後 オロパタジン塩酸塩口腔内崩壊錠 5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 夕食後 アンブロキシオール塩酸塩徐放口腔内崩壊錠 45mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 夕食後</p> |
| 服薬管理 | 管理者：家族 管理方法：一包化 |
| 経過 | <p><介入のきっかけ> 患者家族より、残薬が多くあることを確認した。</p> <p><介入のポイント> 薬を一包化しているが残薬があるため、コンプライアンスが不良。患者の症状を確認し、減薬の提案をおこなった。</p> <p><介入後の経過> 症状の改善により、モサプリド、ミノサイクリン、経腸成分栄養剤は減薬となった。</p> |
| 参考文献 | 特になし |

| | |
|-----------------------|--|
| 事例2：残薬により眠剤の減薬を提案した事例 | |
| 療養環境 | 慢性期 |
| 問題点 | コンプライアンスの低下 |
| 患者背景 | 88歳 女性 主症状：高血圧、喘息 |
| 処方 | <p><介入前：12剤> アンブロキシソール塩酸塩錠 15mg 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝夕食後 ベニジピン塩酸塩錠 2mg 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝夕食後 膵臓性消化酵素配合剤(1) 1回1g (1日2g) 1日2回 朝夕食後 テプレノンカプセル 50mg 1回1カプセル (1日2カプセル) 1日2回 朝夕食後 ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg 1回0.5錠 (1日0.5錠) 1日1回 眠前 センノシド錠 12mg 1回2錠 (1日2錠) 1日1回 眠前 エピナスチン塩酸塩錠 20mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 眠前 モンテルカスト錠 10mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 眠前 レボチロキシナトリウム錠 25μg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 アスピリン腸溶錠 100mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 アルファカルシドールカプセル 0.25μg 1回1カプセル (1日1カプセル) 1日1回朝食後 ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg 1回0.5錠 (頓服) 不眠時</p> <p><介入後：9剤> アンブロキシソール塩酸塩錠 15mg 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝夕食後 ベニジピン塩酸塩錠 2mg 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝夕食後 膵臓性消化酵素配合剤 1回1g (1日2g) 1日2回 朝夕食後 テプレノンカプセル 50mg 1回1カプセル (1日2カプセル) 1日2回 朝夕食後 エピナスチン塩酸塩錠 20mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 眠前 モンテルカスト錠 10mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 眠前 レボチロキシナトリウム錠 25μg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 アスピリン腸溶錠 100mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 アルファカルシドールカプセル 0.25μg 1回1カプセル (1日1カプセル) 1日1回 朝食後</p> |
| 服薬管理 | 管理者：訪問看護師 管理方法：一包化 (寝る前のみ日付記載)、お薬カレンダー使用 |
| 経過 | <p><介入のきっかけ> 独居で家族がたまたま服薬確認をしていたが、整理がつかなくなったため訪問看護師が介入し、残薬の詳細がわかった。</p> <p><介入のポイント> 薬を一包化しているが残薬があり、睡眠薬を服用しなくても眠れている日が多々あるため処方医へ情報提供を行い眠前の薬について減薬の提案をおこなった。</p> <p><介入後の経過> 日数調整を行い多くあった残薬を整理することができた。</p> |
| 参考文献 | 特になし |

| | |
|-------------------------|---|
| 事例3：薬剤性パーキンソン症候群が疑われた事例 | |
| 療養環境 | 認知症対応型共同生活介護 |
| 問題点 | 歩行困難 |
| 患者背景 | 80歳代 女性 主症状：認知症に伴う妄想知覚 |
| 処方 | <p><介入前：7剤> プラバスタチン Na錠 10mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 アムロジピン錠 5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 ドネペジル塩酸塩 OD錠 5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 ニセルゴリン錠 5mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 センノシド錠 12mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 夕食後 チアプリド塩酸塩錠 25mg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝夕食後 メマンチン塩酸塩 OD錠 20mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 眠前</p> <p><介入後：6剤> プラバスタチン Na錠 10mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 アムロジピン錠 5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 ドネペジル塩酸塩 OD錠 5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 ニセルゴリン錠 5mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 センノシド錠 12mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 夕食後 メマンチン塩酸塩 OD錠 20mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 眠前</p> |
| 服薬管理 | 薬剤師居宅療養管理指導 |
| 経過 | <p><介入のきっかけ> 施設看護師より当該患者が体の傾きがあり歩行困難であることの報告を受けた。薬剤師訪問時に患者状態の確認を行ったところ、報告内容に加えて、立ち上がり動作のあと一歩目がでないという訴え、体の傾きにより座位の保持が困難であることを認めた。</p> <p><介入ポイント> チアプリドは腎排泄型薬剤であり腎機能により用量調整が必要である。患者の観察を行い、薬剤管理を行う必要があると考えられる。チアプリドによる薬剤性パーキンソニズムを疑い、医師に対し、減量または中止の提案を行った。</p> <p><介入後の経過> チアプリドは中止となった。歩行困難は消失した。</p> |
| 参考文献 | 重篤副作用疾病別対応マニュアル 薬剤性パーキンソニズム |

| | |
|--------------------------|--|
| 事例4：副作用による嚥下能力の低下が疑われた事例 | |
| 療養環境 | 認知症対応型共同生活介護 |
| 問題点 | 嚥下障害 |
| 患者背景 | 80歳代 女性 主症状：認知症に伴う妄想知覚 食形態：ミキサー食 |
| 処方 | <p><介入前：7剤> 酸化マグネシウム原末 1回1g (1日2g) 1日2回 朝夕食後 リスペリドン細粒1% (1日0.15g) 朝食後0.05g 夕食後0.10g エソメプラゾールカプセル 20mg 1回1カプセル (1日1カプセル) 1日1回 朝食後 (脱カプセル) センノシド錠 12mg 1回2錠 (1日2錠) 1日1回 夕食後 (粉碎) クエチアピン細粒50% 1回0.05g (1日0.1g) 1日2回 朝食後眠前 メマンチン塩酸塩 OD錠 5mg 1回2錠 (1日2錠) 1日1回 夕食後 マクロゴール4000・塩化ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・塩化カリウム散 1回1包 (1日1包) 1日1回 朝食後</p> <p><介入後：5剤> 酸化マグネシウム原末 1回1g (1日2g) 1日2回 朝夕食後 エソメプラゾールカプセル 20mg 1回1カプセル (1日1カプセル) 1日1回 朝食後 (脱カプセル) センノシド錠 12mg 1回2錠 (1日2錠) 1日1回 夕食後 (粉碎) メマンチン塩酸塩 OD錠 5mg 1回3錠 (1日3錠) 1日1回 夕食後 マクロゴール4000・塩化ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・塩化カリウム散 1回1包 (1日1包) 1日1回 朝食後</p> |
| 服薬管理 | 薬剤師居宅療養管理指導 |
| 経過 | <p><介入のきっかけ> 施設介護職員より飲み込みが悪く、うまく食べることができないと報告を受けた。</p> <p><介入ポイント> 非定形型抗精神病薬の嚥下障害のリスクについては知られている。報告を受けたのち服用薬を確認し、リスペリドン、クエチアピンの服用をしていたため中止を提案した。</p> <p><介入後の経過> 主治医よりリスペリドンとクエチアピンの2剤について中止の指示を受けた。中止後も強い興奮がみられたためメマンチンを増量するよう指示があった。抗精神病薬中止後はミキサー食の摂食ができるまで改善がみられた。</p> |
| 参考文献 | 高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015 |

| | |
|---|--|
| 事例5：代謝に関わる酵素がCYP3A4である薬剤の併用で有害事象が疑われる事例 | |
| 療養環境 | 家族で生活 |
| 問題点 | 腎機能悪く、心房細動、糖尿病 |
| 患者背景 | 80歳女性 平成11年8月に来院し、心房細動がおちつかないため、シベンゾリンコハク酸塩錠で安定していた。シベンゾリンコハク酸塩錠100mg 2錠を長く服用していたが、胃部不快感、胸の違和感を訴えシベンゾリンコハク酸塩錠50mg 2錠で落ち着いている。 |
| 処方 | <p><介入前：12剤> アスピリン腸溶錠100mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 リナグリプチン錠5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 カルベジロール錠10mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 グリメピリド錠1mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 シベンゾリンコハク酸塩錠50mg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝夕食前 ミグリトール錠 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝夕食前 アトルバスタチン錠10mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 夕食後 フェブキソスタット錠10mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 夕食後 エソメプラゾールカプセル20mg 1回1カプセル（1日1カプセル）1日1回 夕食後 ワルファリンカリウム錠1mg 1回3錠（1日3錠）1日1回 夕食後 レボセチリジン錠5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 夕食後 メキタジン錠3mg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝夕食後</p> <p><介入後：11剤> アスピリン腸溶錠100mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 リナグリプチン錠5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 カルベジロール錠10mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 グリメピリド錠1mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 シベンゾリンコハク酸塩錠50mg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝夕食前 ミグリトール錠 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝夕食前 アトルバスタチン錠10mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 夕食後 フェブキソスタット錠10mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 夕食後 エソメプラゾールカプセル20mg 1回1カプセル（1日1カプセル）1日1回 夕食後 ワルファリンカリウム錠1mg 1回3錠（1日3錠）1日1回 夕食後 <u>フェキソフェナジン錠（頓服で使用）</u></p> |
| 服薬管理 | コンプライアンス良好 |
| 経過 | <p><介入のきっかけ> アトピー性皮膚炎でレボセチリジン錠、メキタジン錠の服用を始めるとシベンゾリンコハク酸塩錠100mgを2錠服用していた時のように胸の違和感、胃部不快感があることを確認した。</p> <p><介入のポイント> シベンゾリンコハク酸塩錠との相互作用で、糖尿病薬やβブロッカーを含んだカルベジロールが処方されているが、これは変更不可であった。またアトピーの薬が処方されるまでは安定していた。そこで検査値を検討してみた。クレアチニン1.40、e-GFR38.36、HbA1c7.2、中性脂肪179と主なものはこれだけで、代謝に原因があるのではないかと考え、シベンゾリンコハク酸塩錠やレボセチリジン錠等のCYP3A4が競合的に拮抗していると思い、レボセチリジン錠の減薬提案を処方医に行った。</p> <p><介入の経過> レボセチリジン錠が中止となり、症状は落ち着いた。今は時々アレグラ錠を併用することがあるが全く異常は認められない。</p> |
| 参考文献 | |

| 事例6：スピロノラクトンによる女性化乳房が疑われた事例 | |
|-----------------------------|--|
| 療養環境 | 本人、長男と来局することもある |
| 問題点 | スピロノラクトン錠 25mgによる女性化乳房と思われる |
| 患者背景 | 70歳 男性 平成25年2月狭心症で来局、硝酸イソソルビド徐放カプセル 20mgで安定していた。平成29年肺がんが見つかる。すぐに手術し、放射線療法でほぼ完治。令和元年10月に急性心筋梗塞(CK値→CK2754)。令和元年12月エゼチミブ 10mg錠とピタバスタチン CaO4mgにて横紋筋融解症の副作用有、令和2年9月に不整脈あり、スピロノラクトン 25mgを服用。 |
| 処方 | <p><介入前：7剤> クロピドグレル錠 75mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 フロセミド錠 20mg 1回2錠 (1日2錠) 1日1回 朝食後 エゼチミブ錠 10mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 <u>スピロノラクトン錠 25mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後</u> カルベジロール錠 10mg 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝夕食後 ロサルタンカリウム錠 25mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後 フェブキシostat錠 10mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後</p> <p><介入後：7剤> クロピドグレル錠 75mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 フロセミド錠 20mg 1回2錠 (1日2錠) 1日1回 朝食後 エゼチミブ錠 10mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 <u>アスパラカリウム錠 300mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後</u> カルベジロール錠 10mg 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝夕食後 ロサルタンカリウム錠 25mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後 フェブキシostat錠 10mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後</p> |
| 服薬管理 | コンプライアンス良好 |
| 経過 | <p><介入のきっかけ> 令和2年9月に血中K値が3.3まで下がり不整脈が出現したためスピロノラクトン錠 25mgを使用し始め、令和3年1月にK値は4.7まで戻ったが、女性化乳房による痛みが出ていることを患者より確認した。</p> <p><介入のポイント> 女性化乳房のおそれがある旨を医師に情報提供を行った。</p> <p><介入後の経過> スピロノラクトン 25mgは中止となったが、中止後K値が再度、低くなってきたのでL-アスパラギン酸カリウム錠 300mgが追加となった。</p> |
| 参考文献 | |

| | |
|---------------------------------|---|
| 事例7：プロモニジン点眼液の全身作用による副作用が疑われる事例 | |
| 療養環境 | 家族で生活 |
| 問題点 | プロモニジン点眼液 0.1% を使用しだして、嘔気、動悸あり |
| 患者背景 | 74 歳 男性 心房細動にて H23 年 10 月よりワルファリンカリウムを服用中。緑内障あり。 |
| 処方 | <p><介入前：内服 2 剤、外用 2 剤></p> <p>A 医院 ワルファリンカリウム錠 1mg 1 回 3 錠 (1 日 3 錠) 1 日 1 回 就寝前 ワルファリンカリウム錠 0.5mg 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 就寝前 ピルシカイニド塩酸塩カプセル 50mg 1 回 1 カプセル (1 日 2 カプセル) 1 日 2 回 朝夕食後</p> <p>B 医院 プロモニジン点眼液 0.1% ブリンゾラミド懸濁性点眼液 1%</p> <p><介入後：内服 1 剤、外用 2 剤></p> <p>A 医院 ワルファリンカリウム錠 1mg 1 回 3 錠 (1 日 3 錠) 1 日 1 回 就寝前 ワルファリンカリウム錠 0.5mg 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 就寝前</p> <p>B 医院 ラタノプロスト点眼液 0.005% ブリンゾラミド懸濁性点眼液 1%</p> |
| 服薬管理 | コンプライアンス良好 |
| 経過 | <p><介入のきっかけ></p> <p>患者より嘔気・動悸の症状があることを確認した。</p> <p><介入のポイント></p> <p>嘔気・動悸の原因はプロモニジン点眼液 0.1% による全身作用を疑い、点眼後に 5 分ほど涙囊をおさえるように指導した。その結果、全く副作用がみられなかったので眼科医に、その旨を伝え、薬剤の変更を提案した。</p> <p><介入の経過></p> <p>点眼液、プロモニジン点眼液 0.1% は中止となり、ラタノプロスト点眼液 0.005% が追加となり変更となった。さらに、A 医院からもピルシカイニド塩酸塩カプセルの必要もなくなった。</p> |
| 参考文献 | |

| | |
|----------------|--|
| 事例 8 : 薬効重複の事例 | |
| 療養環境 | 慢性期 |
| 問題点 | 薬効重複 (同一処方箋内) |
| 患者背景 | 85 歳 女性 主症状 : 高血圧、脂質異常症、骨粗しょう症 |
| 処方 | <p><介入前 : 5 剤></p> <p>A 医院 アムロジピン錠 5mg 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 朝食後 アルファカルシドールカプセル 1μg 1 回 1 カプセル (1 日 1 カプセル) 1 日 1 回 朝食後 ロスバスタチン錠 2.5mg 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 朝食後 ファモチジン D 錠 20mg 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 朝食後</p> <p>B 病院 (他薬局利用) エルデカルシトールカプセル 0.75μg 1 回 1 カプセル (1 日 1 カプセル) 1 日 1 回 朝食後</p> <p><介入後 : 4 剤></p> <p>A 医院 アムロジピン錠 5mg 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 朝食後 ロスバスタチン錠 2.5mg 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 朝食後 ファモチジン D 錠 20mg 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 朝食後 エルデカルシトールカプセル 0.75μg 1 回 1 カプセル (1 日 1 カプセル) 1 日 1 回 朝食後</p> |
| 服薬管理 | 本人 (ヒート包装) |
| 経過 | <p><介入のきっかけ></p> <p>A 医院へは約 20 年間慢性疾患にて通院中。以前は内服 4 剤 (A 医院) に加え、アレンドロン酸錠 35mg 1 回 1 錠週 1 回内服していたが、自宅にて転倒し、B 病院受診 (約 1 年前) 1 カ月に 1 回イベニティ皮下注射開始することになり、アレンドロン酸錠 35mg 処方中止となった。</p> <p>他の内服 4 剤は継続処方。約 1 カ月半前、検診結果より皮下注射→内服薬へ変更。</p> <p>お薬手帳により、B 病院にてエルデカルシトールカプセル 0.75μg 90 日分を他薬局にて調剤済。A 医院は B 病院処方服薬終了後に継続する為にエルデカルシトールカプセル 0.75μg 8 日分処方された。(約 1 カ月半は 2 剤重複服用されていた)</p> <p><介入のポイント></p> <p>他院他薬局利用のため、同効果の薬剤が処方されていたため、アルファカルシドールからエルデカルシトールへの変更を本人と付き添いの家族に説明し、A 医院の医師へ情報提供を行った。</p> <p><介入の経過></p> <p>その後アルファカルシドールは中止となり、現在はエルデカルシトールカプセルのみ服用となった。</p> |
| 参考文献 | |

| | |
|-------------------|--|
| 事例9：他科で胃粘膜保護薬重複事例 | |
| 療養環境 | 慢性期 |
| 問題点 | 胃粘膜保護剤重複によるポリファーマシー状態 |
| 患者背景 | 70歳 男性 主症状：高血圧、脂質異常症、皮脂欠乏性湿疹、好酸球性膿疱性毛包炎 |
| 処方 | <p><介入前：11剤></p> <p>A 医院 アムロジピン OD錠 5mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 バルサルタン錠 80mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ロスバスタチン錠 2.5mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 レバミピド錠 100mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後 ニフェジピン徐放錠 (12時間持続) 10mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後 酸化マグネシウム錠 330mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後 プレガバリンカプセル 25mg 1回1カプセル (1日2カプセル) 1日2回 朝夕食後</p> <p>B 医院 プレドニゾロン錠 1mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ルパタジン錠 10mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 眠前 アセメタシン錠 30mg 1回1錠 (1日3錠) 1日3回 毎食後 ポラプレジック OD錠 75mg 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝夕食後</p> <p><介入後：10剤></p> <p>A 医院 アムロジピン OD錠 5mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 バルサルタン錠 80mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ロスバスタチン錠 2.5mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ニフェジピン徐放錠 (12時間持続) 10mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後 酸化マグネシウム錠 330mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後 プレガバリンカプセル 25mg 1回1カプセル (1日2カプセル) 1日2回 朝夕食後</p> <p>B 医院 プレドニゾロン錠 1mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ルパタジン錠 10mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 眠前 アセメタシン錠 30mg 1回1錠 (1日3錠) 1日3回 毎食後 ポラプレジック OD錠 75mg 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝夕食後</p> |
| 服薬管理 | 管理者：本人。 管理方法：B 医院は一包化（用法のみ印字） |
| 経過 | <p><介入のきっかけ> 服用薬剤数が多いと相談を受けた。</p> <p><介入のポイント> 胃粘膜保護剤重複について患者へ確認をおこなった。 B 医院の薬剤は他薬局での処方のため、処方意図などが不明だが、ポラプレジックは、胃腸粘膜保護作用ではなく、亜鉛補給の目的が推察されたので、B 医院へ情報提供を行い、意見を伺った。 返信があり、亜鉛補給と確認できたため、レバミピド錠処方元の A 医院へ減薬提案を行った。</p> <p><介入の経過> レバミピドが削除となり、その後も胃腸症状もなく経過していることを電話フォローにて確認。現在も治療継続中。</p> |
| 参考文献 | 特になし |

| | |
|-----------------|--|
| 事例10：眩暈治療薬の長期投与 | |
| 療養環境 | 慢性期 |
| 問題点 | 症状改善後の長期投与 |
| 患者背景 | 69歳 女性 主症状：高血圧、胃・十二指腸潰瘍 |
| 処方 | <p><介入前：4剤> バルサルタン錠 80mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 オメプラゾール錠 10mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 メコバラミン錠 500μg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝夕食後 カリジノゲナーゼカプセル 50単位 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝夕食後</p> <p><介入後：2剤> バルサルタン錠 80mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 オメプラゾール錠 10mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後</p> |
| 服薬管理 | 本人 管理良好 |
| 経過 | <p><介入のきっかけ> 減薬の希望を主治医に相談できなかったことを確認した。</p> <p><介入のポイント> 患者本人より眩暈は症状が改善しているとのことで、その内容及び減薬提案を情報提供書として提出した</p> <p><介入の経過> メチコバル、カリジノゲナーゼ削除となり、現在も眩暈症状なく経過している。</p> |
| 参考文献 | 添付文書（長期投与について） |

| 事例 11 : お薬の種類が多い事による飲み忘れと症状改善の継続処方に介入した事例 | |
|---|--|
| 療養環境 | 慢性期 |
| 問題点 | コンプライアンス低下 |
| 患者背景 | 82歳 女性 主症状：糖尿病、脂質異常症 |
| 処方 | <p><介入前：13剤> エルデカルシトールカプセル 0.75μg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ラベプラゾール錠 10mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ピオグリタゾン錠 15mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ピタバスタチン錠 2mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 アスピリン腸溶錠 100mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ラロキシフェン錠 60mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 レバミピド錠 100mg 1回1錠 (1日3錠) 1日3回 毎食後 エチゾラム錠 0.5mg 1回1錠 (1日3錠) 1日3回 毎食後 モサプリドクエン酸塩錠 5mg 1回1錠 (1日3錠) 1日3回 毎食後 トラネキサム酸錠 250mg 1回1錠 (1日3錠) 1日3回 毎食後 トコフェロールニコチン酸エステルカプセル 200mg 1回1カプセル (1日3カプセル) 1日3回 毎食後 トリアゾラム錠 0.25mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 就寝前 ロキソプロフェン錠 60mg 1回1錠 (頓服) 疼痛時</p> <p><介入後：9剤> エルデカルシトールカプセル 0.75μg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ラベプラゾール錠 10mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ピオグリタゾン錠 15mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 アスピリン腸溶錠 100mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ラロキシフェン錠 60mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 レバミピド錠 100mg 1回1錠 (1日3錠) 1日3回 毎食後 エチゾラム錠 0.5mg 1回1錠 (1日3錠) 1日3回 毎食後 トリアゾラム錠 0.25mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 就寝前 ロキソプロフェン錠 60mg 1回1錠 (頓服) 疼痛時</p> |
| 服薬管理 | 管理者：本人 管理方法：ヒート包装 |
| 経過 | <p><介入のきっかけ> 本人の相談により、薬の種類が多すぎて飲み忘れてしまう。又、不調をほとんど感じない。薬の種類を減らしたいとの意思を確認。</p> <p><介入ポイント> 現在の症状を確認したところ、当初あった喉の不調や冷え、胃の調子も改善し食欲もあるとの事だったため、処方内容の見直しについて医師に提案をした。同時に患者の減薬を望んでいる旨も情報提供した。</p> <p><介入後の経過> モサプリドクエン酸錠 5mg、トラネキサム酸錠 250mg、トコフェロールニコチン酸エステルカプセル 200mg の中止に加え、ピタバスタチン錠 2mg も採血結果が良かったことにより中止となった。患者本人は薬の種類が減った事で、飲みやすくなったと喜ばれ、現在は飲み忘れもなく服用できている。</p> |
| 参考文献 | 添付文書 |

| 事例12：多剤による胃腸障害の可能性に介入した事例 | |
|---------------------------|---|
| 療養環境 | 在宅医療 |
| 問題点 | 多剤による胃腸障害の可能性 |
| 患者背景 | 80歳 男性 主症状：慢性心不全、糖尿病、不安症、胃部不快感 |
| 処方 | <p><介入前：9剤></p> <p>A 医院 シタグリプチン錠 50mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 バルサルタン錠 40mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 グリメピリド錠 1mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 エンパグリフロジン錠 10mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 エチゾラム錠 0.5mg 1回1錠 (頓服) 不安時</p> <p>B 医院 カルベジロール錠 10mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 エナラプリルマレイン酸塩錠 5mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 リバーロキサバン錠 10mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 アゼセミド錠 30mg 1回1.5錠 (1日1.5錠) 1日1回 朝食後</p> <p><介入後：9剤> 処方変更なし</p> |
| 服薬管理 | 管理者：本人 管理方法：一包化 (用法記載) |
| 経過 | <p><介入のきっかけ> 患者本人の訴えより、胃酸が上がって気持ちが悪く、マスクができないことを確認した。薬剤の数を気にされていることを確認した。元来神経質でエチゾラムが手放せない。</p> <p><介入のポイント> 多剤服用のための胃腸障害の可能性もあるが、勝手に薬をやめてしまう傾向があり、一包化したのちも勝手に間引いてしまう傾向がある。市販薬なども購入するが直らないとすぐに中止してしまう。以前レバミピドが処方されたが効果が無いため中止になったことがある。リバーロキサバンによる副作用 (胃腸障害) も否定できない。患者自ら診察時医師に伝えることを気兼ねされていたため、B 医院には消化器検査と PPI の処方提案を行った。さらに薬剤数が多いことによる不安も大きくあったため A 医院には、自己判断で薬を調節している旨と年齢も考慮し糖尿病薬の種類の減薬もしくは減量を提案した。</p> <p><介入後の経過> 消化器の検査を勧められたようだがすべて拒否。血糖のコントロールも悪くフットケアも含め観察中。薬剤数に過敏な為、薬の変更はなし。 現在、心不全が悪化している。医師との意思疎通が難しいタイプだが、安心して相談してもらえる環境作りをし、副作用を含め症状の変化に早期に気が付く環境を作って対応している。</p> |
| 参考文献 | 特になし |

| | |
|--|---|
| 事例13：認知機能の低下と家族の介護疲れによる服薬のコンプライアンスの低下に介入した事例 | |
| 療養環境 | 在宅医療 |
| 問題点 | コンプライアンスの低下 |
| 患者背景 | 84歳 男性 主症状：意味性認知症、高血圧、喘息 |
| 処方 | <p><介入前：14剤></p> <p>A 医院 フロセミド錠 20mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ビソプロロールフマル酸塩錠 2.5mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ロキソプロフェン錠 60mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ラベプラゾールナトリウム錠 10mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 酸化マグネシウム錠 330mg 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝夕食後 ルパタジンフマル酸塩錠 10mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後 センノシド錠 12mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後 アンブロキシソール塩酸塩徐放OD錠 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後 モンテルカスト錠 10mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 寝る前 カルボシステイン錠 500mg 1回1錠 (1日3錠) 1日3回 毎食後 d-クロルフェニラミンマレイン酸塩錠 2mg 1回1錠 (頓服) 鼻水がひどいとき</p> <p>B 医院 メマンチン塩酸塩 OD錠 20mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後 クエチアピン錠 25mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後 抑肝散エキス顆粒 1回2.5g (1日7.5g) 1日3回 毎食後</p> <p><介入後：11剤></p> <p>A 医院 フロセミド錠 20mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ビソプロロールフマル酸塩錠 2.5mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ラベプラゾールナトリウム錠 10mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 アンブロキシソール塩酸塩徐放OD錠 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ルパタジンフマル酸塩錠 10mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 酸化マグネシウム錠 330mg 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝夕食後 センノシド錠 12mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後 モンテルカスト錠 10mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後</p> <p>B 医院 メマンチン塩酸塩 OD錠 20mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後 クエチアピン錠 25mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後 抑肝散エキス顆粒 1回2.5g (1日5g) 1日2回 朝・夕食後</p> |
| 服薬管理 | 管理者：家族 管理方法：一包化 (日付+用法記載)、お薬カレンダー使用 |
| 経過 | <p><介入のきっかけ></p> <p>患者家族 (妻) の相談により、認知機能の低下と残薬がある。毎食後服薬をさせるのが困難となってきたことを確認した。</p> <p><介入のポイント></p> <p>毎食後の服用が困難であることや頓服薬や昼食後の残薬があることやロキソプロフェンはヒートにてお渡ししていたが、頭痛があっても服用をしていないことを患者家族から聞き取れた為、服用タイミングを朝・夕にまとめることと、残薬のあるお薬に関しては服用を中止することをA医院、B医院の主治医に提案。</p> <p><介入後の経過></p> |

| | |
|------|--|
| | ロキソプロフェン錠、カルボシステイン錠、d-クロルフェニラミンマレイン酸塩錠は中止となり、昼食後の薬は中止となり、夕食後の中で可能なものは朝食後に変更となった。その後、家族の負担は軽減し本人も服薬できている。症状も以前と変わらず、安定している。 |
| 参考文献 | 添付文書 |

| | |
|-----------------------------------|--|
| 事例 1 4 : ACE 阻害薬と ARB 薬の併用に介入した事例 | |
| 療養環境 | 在宅医療 |
| 問題点 | 同効薬を服用されている |
| 患者背景 | 78 歳 男性 主症状 : 脂質異常症、高血圧、甲状腺機能低下症、血栓塞栓症、鼻炎、前立腺肥大症 |
| 処方 | <p><介入前 : 1 4 剤></p> <p>A 医院 エナラプリル錠 5mg 1 回 2 錠 (1 日 2 錠) 1 日 1 回 朝食後 アトルバスタチン錠 5mg 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 朝食後 ラベプラゾールナトリウム錠 10mg 1 回 2 錠 (1 日 2 錠) 1 日 1 回 朝食後 テルミサルタン錠 40mg 1 回 2 錠 (1 日 2 錠) 1 日 1 回 朝食後 レボチロキシナトリウム錠 50 μg 1 回 2 錠 (1 日 2 錠) 1 日 1 回 朝食後 トリクロルメチアジド錠 2mg 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 朝食後 フロセミド錠 20mg 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 朝食後 アピキサバン錠 5mg 1 回 1 錠 (1 日 2 錠) 1 日 2 回 朝夕食後 ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 寝る前</p> <p>B 医院 カルボシステイン錠 500mg 1 回 1 錠 (1 日 3 錠) 1 日 3 回 毎食後 デスロラタジン錠 5mg 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 夕食後</p> <p>C 医院 ジスチグミン臭化物錠 5mg 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 朝食後 ナフトピジル OD 錠 75mg 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 朝食後 タダラフィル錠 5mg 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 朝食後</p> <p><介入後 : 1 3 剤></p> <p>A 医院 アトルバスタチン錠 5mg 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 朝食後 ラベプラゾールナトリウム錠 10mg 1 回 2 錠 (1 日 2 錠) 1 日 1 回 朝食後 テルミサルタン錠 40mg 1 回 2 錠 (1 日 2 錠) 1 日 1 回 朝食後 レボチロキシナトリウム錠 50 μg 1 回 2 錠 (1 日 2 錠) 1 日 1 回 朝食後 トリクロルメチアジド錠 2mg 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 朝食後 <u>フロセミド錠 20mg 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 朝食後 (服用頻度変更)</u> アピキサバン錠 5mg 1 回 1 錠 (1 日 2 錠) 1 日 2 回 朝夕食後 ゾルピデム酒石酸塩錠 5mg 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 寝る前</p> <p>B 医院 カルボシステイン錠 500mg 1 回 1 錠 (1 日 3 錠) 1 日 3 回 毎食後 デスロラタジン錠 5mg 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 夕食後</p> <p>C 医院 ジスチグミン臭化物錠 5mg 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 朝食後 ナフトピジル OD 錠 75mg 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 朝食後 タダラフィル錠 5mg 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 朝食後</p> |
| 服薬管理 | 管理者 : 本人 管理方法 : ヒート管理 |
| 経過 | <p><介入のきっかけ></p> <p>内服薬が多くなってきており本人も高齢となるので、本人と家族 (娘) にポリファーマシーについて相談をした。</p> <p><介入のポイント></p> <p>ACE 阻害薬であるエナラプリルと ARB 薬であるテルミサルタンの併用について、作用機序は</p> |

| | |
|------|--|
| | <p>違うが同じような効果のある医薬品であるため、エナラプリルの処方について削除の提案を行った。</p> <p><介入後の経過></p> <p>ACE 阻害薬であるエナラプリルが処方削除となり、継続的に毎日血圧を測定してもらい経過観察をしていたが血圧が上昇することもなく安定していたが、こむら返りの回数が増えたと相談があったのとむくみはそこまで感じておられず血液検査の結果 Na 値が低値であったことと、自己調節でフロセミドを減量されていたため、減量もしくは使用頻度の見直しを提案した結果、フロセミドについては使用頻度が少なくなった。</p> |
| 参考文献 | 添付文書 |

| | |
|-------------------|---|
| 事例15：長期使用されていた外用薬 | |
| 療養環境 | 在宅医療 |
| 問題点 | 見直しの無い長期処方 |
| 患者背景 | 90歳 女性 主症状：脂質異常症、高血圧、便秘症、胃腸障害 |
| 処方 | <p><介入前：内服11剤、外用4剤></p> <p>アトルバスタチン錠5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 夕食後 オメプラゾール錠10mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 夕食後 ビソプロロールフマル酸塩錠2.5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 夕食後 カンデサルタン錠8mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 アムロジピンOD錠5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 ビフィズス菌錠 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 フルスルチアミン錠25mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 モサプリドクエン酸塩錠5mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食前 ロゼレム錠8mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 寝る前 酸化マグネシウム錠330mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 メペンゾラート臭化物錠7.5 1回1錠（頓服）1日3回まで ジクロフェナクNa外用薬 150g ベタメタゾン・ゲンタマイシン配合外用薬 30ml ケトプロフェンテープ20mg 70枚 アルプロスタジルアルファデクス軟膏 10g 右足褥瘡 平成29年5月から</p> <p><介入後：内服11剤、外用3剤></p> <p>アトルバスタチン錠5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 夕食後 オメプラゾール錠10mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 夕食後 ビソプロロールフマル酸塩錠2.5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 夕食後 カンデサルタン錠8mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 アムロジピンOD錠5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 ビフィズス菌錠 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 フルスルチアミン錠25mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 モサプリドクエン酸塩錠5mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食前 ロゼレム錠8mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 寝る前 酸化マグネシウム錠330mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 メペンゾラート臭化物錠7.5 1回1錠（頓服）1日3回まで ジクロフェナクNa外用薬 150g ベタメタゾン・ゲンタマイシン配合外用薬 30ml ケトプロフェンテープ20mg 70枚</p> |
| 服薬管理 | 管理者：本人 管理方法：PTPシート |
| 経過 | <p><介入のきっかけ></p> <p>平成29年5月にアルプロスタジルアルファデクス軟膏10g右足褥瘡部に塗布として使用開始しており巻爪が食い込んだことにより発症し当時創傷部がかなり潰瘍化した。昨年より、薬を薬局に取りに取られる家族に対し、薬の必要性の有無についてご本人に確認して頂きたいと伝えていたが、本人は必要との返事だった。以後、家族に対し、診察時に薬の必要についても聞いて下さいと伝えていたがそのままの継続処方であった。令和2年10月に家族に対して傷の状況について確認したところ褥瘡部は直っているが、不安のため薬を継続していることを確認した。</p> |

| | |
|------|--|
| | <p><介入のポイント></p> <p>創部が正常となっていることを考慮し、油脂性基剤であるアルプロスタジルアルファデクス軟膏の性質上から一旦の中止または変更を処方医に提案した。</p> <p><介入後の経過></p> <p>診察時に患部を確認されて処方中止となり、投薬時に幹部に圧力がかからないようにクッションを置くなど行うよう助言を行った。その後、悪化なく過ごされている。内服についても、今回の介入がきっかけとなり、内服薬の減量についても提案中である。</p> |
| 参考文献 | |

| 事例16：腎機能低下における抗リウマチ薬の変更を提案した事例 | |
|--------------------------------|--|
| 療養環境 | 在宅医療 |
| 問題点 | 腎機能の低下 |
| 患者背景 | 77歳 女性 主症状：脂質異常症、高血圧、便秘症、関節リウマチ、リベド血管症 |
| 処方 | <p><介入前：8剤> A医院（院内処方） プラバスタチンNa錠10mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 夕食後 イコサペント酸エチル粒状カプセル900mg 1回1包（1日2包）1日2回 朝夕食後 ボノプラザン錠10mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 酸化マグネシウム錠330mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 ロサルタンカリウム50mg・ヒドロクロロチアジド12.5mg 配合剤 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後</p> <p>B医院 メトトレキサートカプセル2mg 1回1カプセル（1日2カプセル） 1日2回 朝夕食後 週1回（火曜日） 葉酸錠5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 週1回（木曜日）</p> <p>C医院 ワルファリンカリウム錠1mg 1回2.5錠（1日2.5錠）1日1回 夕食後</p> <p><介入後：7剤> A医院（院内処方） プラバスタチンNa錠10mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 夕食後 イコサペント酸エチル粒状カプセル900mg 1回1包（1日2包）1日2回 朝夕食後 ボノプラザン錠10mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 酸化マグネシウム錠330mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 ロサルタンカリウム50mg・ヒドロクロロチアジド12.5mg 配合剤 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後</p> <p>B医院 サラゾスルファピリジン腸溶錠500mg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝夕食後</p> <p>C医院 ワルファリンカリウム錠1mg 1回2.5錠（1日2.5錠）1日1回 夕食後</p> |
| 服薬管理 | 管理者：本人 管理方法：ヒート |
| 経過 | <p><介入のきっかけ> 患者よりA医院の血液検査の結果で腎機能の低下を伝えられたことと、B医院でも心配だと言われ、当薬局で相談を受け、血液検査結果を持参していただき確認をした。 血中クレアチニン値：1.0mg/dL eGFR:41.2mL/min CLCr：43mL/min(令和2年3月時点) 血中クレアチニン値：1.17mg/dL eGFR:34.7mL/min CLCr：37mL/min(令和2年6月時点)</p> <p><介入のポイント> 腎機能の低下がみられたため、他薬剤への変更をB医院に提案。</p> <p><介入後の経過> メトトレキサートカプセルの処方中止となり、サラゾスルファピリジン腸溶錠への変更となった。しかし、少しCRP上昇しており痛みも出現しているため、生物学的製剤への変更を検討されている。</p> |
| 参考文献 | 添付文書 |

| 事例17：意思疎通困難者の減薬提案の事例 | |
|----------------------|---|
| 療養環境 | 施設入居 |
| 問題点 | 障害があり意思疎通が難しく、また本人が我慢強い為訴えが出てこない。 |
| 患者背景 | 32歳 男性 主症状：便秘症、高血圧、狭心症、喘息 |
| 処方 | <p><介入前：7剤> カンデサルタン錠 4mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 フロセミド錠 20mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 モンテルカスト錠 10mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 アロプリノール錠 100mg 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝・夕食後 ベニジピン錠 2mg 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝・夕食後 ベラプロストナトリウム錠 20μg 1回1錠 (1日3錠) 1日3回 朝・昼・夕食後 マクロゴール4000・塩化ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・塩化カリウム散 <u>1回2包 (1日2包) 1日1回 夕食後</u></p> <p><介入後：7剤> カンデサルタン錠 4mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 フロセミド錠 20mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 モンテルカスト錠 10mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 アロプリノール錠 100mg 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝・夕食後 ベニジピン錠 2mg 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝・夕食後 ベラプロストナトリウム錠 20μg 1回1錠 (1日3錠) 1日3回 朝・昼・夕食後 マクロゴール4000・塩化ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・塩化カリウム散 <u>1回0.5包 (1日0.5包) 1日1回 夕食後</u></p> |
| 服薬管理 | 管理者：施設職員 管理方法：一包化 (日付曜日+用法記載)、お薬カレンダー使用 |
| 経過 | <p><介入のきっかけ> 便秘症でセンノシドを服用していたが効果が落ちていたためにマクロゴール4000・塩化ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・塩化カリウム散が処方。 2週間程度2包/日で服用していたが、職員との会話の中で本人の訴えは無いが、軟便が数日続いている事と時々お腹を押さえている事がある事を知る。</p> <p><介入のポイント> マクロゴール4000・塩化ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・塩化カリウム散2包服用による軟便・腹痛を疑いDrに相談。マクロゴール4000・塩化ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・塩化カリウム散1包に減量になる。</p> <p><介入後の経過> 暫く1包で様子を見たが排便回数は良好で腹痛の様子も改善。しかし、軟便が続いていたため0.5包に減量。排便回数良好。軟便・腹痛改善の為現在0.5包で継続服用中。</p> |
| 参考文献 | |

| | |
|-------------------------------|---|
| 事例18：長期処方されている薬による副作用疑いに介入した件 | |
| 療養環境 | 足の骨折で入院。退院後在宅往診訪問になり同時に薬局も訪問する事になった。 以前は自身で通院。 |
| 問題点 | 症状が改善しているのに継続服用している薬によって副作用の疑い |
| 患者背景 | 96歳女性 主症状：心不全 以前に咳症状があった為処方された薬を症状改善後も継続服用。訪問時に家族から、昼間の眠気・怠惰感の訴えあり。デイサービスに行っても寝ている事が多い。 |
| 処方 | <p><介入前：9剤></p> <p>フロセミド錠 20mg 1回2錠 (1日2錠) 1日1回 朝食後 トルバプタン錠 7.5mg 1回0.5T (1日0.5錠) 1日1回 朝食後 アスピリン陽溶錠 100mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 アンブロキシソール錠 15mg 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝夕食後 ランソプラゾール錠 15mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 就寝前 モンテルカスト錠 10mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 就寝前 デキストロメトルファン錠 15mg 1回2錠 (1日2錠) 1日1回 夕食後 チペピジンヒベンズ塩酸錠 20mg 1回2錠 (1日2錠) 1日1回 夕食後 フェキソフェナジン錠 30mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後</p> <p><介入後：5剤></p> <p>フロセミド錠 20mg 1回2錠 (1日2錠) 1日1回 朝食後 トルバプタン錠 7.5mg 1回0.5T (1日0.5錠) 1日1回 朝食後 アスピリン腸溶錠 100mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 アンブロキシソール錠 15mg 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝夕食後 ランソプラゾール錠 15mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 就寝前</p> |
| 服薬管理 | 管理者：訪問看護、管理者：家族 管理方法：一包化（日付+用法記載）、お薬カレンダー使用 |
| 経過 | <p><介入のきっかけ></p> <p>家族の訴えより、本人に眠気、倦怠感が出ていることを確認。また、喘息や咳症状及びアレルギー症状は改善しておられることを確認。</p> <p><介入のポイント></p> <p>以前に通院していた際の薬剤が引き継がれて処方されており、眠気、倦怠感は服用薬の副作用も考えられること、喘息、咳症状、アレルギー症状の改善の可能性を処方医に報告し、減薬を提案した。</p> <p><介入の経過></p> <p>次回処方時にモンテルカスト錠 10mg、デキストロメトルファン錠 15mg、チペピジンヒベンズ塩酸錠 20mg、フェキソフェナジン錠 30mg の4剤が処方中止。その後の昼間の眠気については頻度が減少し、夜の睡眠がしっかりとできるようになっている気がするとの事。また、減薬による咳症状・アレルギー症状は今のところ見られない。</p> <p>以前通院していた時の処方が引き継がれて処方されていた結果として副作用とみられる症状により QOL が低下していた症例。定期的な服用薬の見直しは必要と考える。</p> |
| 参考文献 | |

| | |
|---------------------------------|--|
| 事例19：患者の主訴から不要な薬剤を選択し、減薬に介入した事例 | |
| 療養環境 | 慢性期 |
| 問題点 | 体調に対して不要な鎮痛剤が継続処方されていた |
| 患者背景 | 87歳 男性 主症状：高血圧、脳血管障害、便秘 |
| 処方 | <p><介入前：7剤></p> <p>メロキシカム錠 10mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 アスピリン腸溶錠 100mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 エソメプラゾールカプセル 20mg 1回1カプセル (1日1カプセル) 1日1回 朝食後 カンデサルタン錠 4mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg 1回1錠 (1日3錠) 1日3回 毎食後 イブジラスト徐放カプセル 10mg 1回1カプセル (1日3カプセル) 1日3回 毎食後 酸化マグネシウム 330mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 寝る前</p> <p><介入後：6剤></p> <p>アスピリン腸溶錠 100mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 エソメプラゾールカプセル 20mg 1回1カプセル (1日1カプセル) 1日1回 朝食後 カンデサルタン錠 4mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg 1回1錠 (1日3錠) 1日3回 毎食後 イブジラストカプセル 10mg 1回1カプセル (1日3カプセル) 1日3回 毎食後 酸化マグネシウム 330mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 寝る前</p> |
| 服薬管理 | 管理者：本人 管理方法：PTP シート |
| 経過 | <p><介入のきっかけ></p> <p>患者に服薬指導の際、メロキシカムが約3か月に渡って継続処方されていることに着目。痛みのコントロールを確認したところ痛みの訴えはなく、継続の必要性に疑いをもつ。</p> <p><介入のポイント></p> <p>服薬情報提供書を使って処方医へ伝達。次回受診時に患者と医師で継続を判断してもらうよう説明。</p> <p><介入後の経過></p> <p>次の処方からメロキシカム削除。以後、疼痛悪化もなくメロキシカムは不要な処方であったと考えられる。</p> |
| 参考文献 | 特になし |

| | |
|-----------------------------|--|
| 事例20：自己判断で薬を中止している患者に介入した事例 | |
| 療養環境 | 通院にて抗がん剤継続治療中 |
| 問題点 | コンプライアンス低下 |
| 患者背景 | 68歳 男性 2020年12月～抗がん剤治療中（GEM+CDDP+S1）進行胆道がん |
| 処方 | <p><介入前：11剤> テガフル 20mg ・ ギメラシル・オテラシル配合口腔崩壊錠 1回4錠（1日8錠）1日2回 朝夕食後 レバミピド錠 100mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 酸化マグネシウム錠 330mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 ビソプロロールフマル酸塩錠 2.5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 ニコランジル錠 5mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 オロパタジン塩酸塩口腔内崩壊錠 5mg 1回1錠（1日2回）1日2回 朝食後・寝る前 フェブキシスタット錠 20mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 エソメプラゾールカプセル 10mg 1回1カプセル（1日1カプセル）1日1回 朝食後 アスピリン腸溶錠 100mg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝昼食後 デキサメサゾン錠 0.5mg 1回8錠（1日16錠）1日2回 朝昼食後 点滴翌日より アズレンスルホン酸ナトリウム水和物含嗽用（外用）うがい</p> <p><介入後：9剤> テガフル 20mg ・ ギメラシル・オテラシル配合口腔崩壊錠 1回4錠（1日8錠）1日2回 朝夕食後 レバミピド錠 100mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 酸化マグネシウム錠 330mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 ビソプロロールフマル酸塩錠 2.5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 ニコランジル錠 5mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 フェブキシスタット錠 20mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 エソメプラゾールカプセル 10mg 1回1カプセル（1日1カプセル）1日1回 朝食後 アスピリン腸溶錠 100mg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝昼食後 アズレンスルホン酸ナトリウム水和物含嗽用（外用）うがい</p> |
| 服薬管理 | 管理者：本人 |
| 経過 | <p><介入のきっかけ> 投薬時に、1回に多数の錠剤の服用は困難と訴えあり（特にデキサメサゾン1回8錠）症状が無いため服薬意義が理解出来ず、自己判断にてオロパタジンとデキサメサゾンを中止していることを確認。</p> <p><介入のポイント> 自己判断でオロパタジンの服用をやめても発疹や掻痒感はず、デキサメサゾンを減らしていったが、吐き気を感じることはなく、食欲もある。医師には自分から話すと言っていたが、面倒になり結局何も伝えていないこと確認し、主治医に服用状況と残薬を報告し、処方検討と患者との話し合いを提案。</p> <p><介入後の経過> オロパタジンとデキサメサゾンは中止になった。その後も掻痒感や吐き気など症状の悪化は見られず。その他の薬については、主治医の指示通り服用出来ている。</p> |
| 参考文献 | 特になし |

| | |
|--|---|
| 事例21：コミュニケーションに工夫を要する患者の生活改善への薬物学的サポートを行った事例 | |
| 療養環境 | 慢性期 |
| 問題点 | 副作用（頻尿）の発現によるコンプライアンスの低下 |
| 患者背景 | 54歳男性 聴覚障害あり、筆談または手話にて会話する、軽度発達障害あり 体重80kg以上、メタボリックシンドローム体型 |
| 処方 | <p><介入前：7剤></p> <p>アムロジピン錠 5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後</p> <p>トリクロルメチアジド錠 2mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後</p> <p>フェブキシostat錠 20mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後</p> <p>ナフトピジル錠 25mg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝夕食後</p> <p>芍薬甘草湯エキス顆粒 1回2.5g（頓服）痛いとき</p> <p>プロピペリン錠 20mg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝夕食後</p> <p>酸化マグネシウム錠 330mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後</p> <p><介入後：5剤></p> <p>バルサルタン錠 80mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後</p> <p>フェブキシostat錠 20mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後</p> <p>ナフトピジル錠 25mg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝夕食後</p> <p>プロピペリン錠 20mg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝夕食後</p> <p>酸化マグネシウム錠 330mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後</p> |
| 服薬管理 | 管理者：本人 管理方法：一包化、用法ごとにマジックで色を付けて区別する |
| 経過 | <p><介入のきっかけ></p> <p>頼まれたことはきちんと実行するまじめな人柄という印象だが、コンプライアンスはよくない。頻尿の訴えで2020/08 プロピペリン錠 20mg 寝る前処方あり。さらに2020/11 プロピペリン 20mg 2錠 1日2回朝夕食後に増量となった。事情をたずねたところ、作業所では流れ作業のラインに配属されており、トイレが近いがトイレに行きにくいことで困っているとのこと。尿酸値も高めなので、サイアザイド系は中止するべきと考え介入することとした。</p> <p><介入のポイント></p> <p>2020/12/トリクロルメチアジドの減量または他剤への変更を処方医にファックスにて提案したところ、2020/12 処方変更とともにお礼のコメントのメモ添えがあった。</p> <p><介入後の経過></p> <p>その後は特に頻尿の訴えもなく、継続中でガイドヘルパーへ事情を説明し、作業所へも状況を伝えることになった。現在も血圧は高めで調整中だが、落ち着いたらプロピペリンの減量を提案したい。</p> |
| 参考文献 | 特になし |

| 事例 2 2 : 転倒リスクの懸念がある事例 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|-------------|-----|----------------------|--------|--------------------------|--------|---------------|--------|-------------------------|--------|------------------|--------|-------------|--------|-------------|-----|----------------------|--------|--------------------------|--------|---------------|--------|-------------------------|--------|-------------|--------|
| 療養環境 | 慢性期 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 問題点 | 転倒のリスク | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 患者背景 | 90代 女性 主症状：パーキンソン病、高血圧 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 処方 | <p><介入前：7剤></p> <table> <tr> <td>カロナール 200mg</td> <td>疼痛時</td> </tr> <tr> <td>アルファカルシドール 1μg</td> <td>1錠 朝食後</td> </tr> <tr> <td>リマプロストアルファデクス錠 5μg</td> <td>3錠 毎食後</td> </tr> <tr> <td>ドパコール配合錠 L100</td> <td>3錠 毎食後</td> </tr> <tr> <td>トレリーフ錠 25mg(ゾニサミド 25mg)</td> <td>1錠 夕食後</td> </tr> <tr> <td>アムロジピン口腔内崩壊錠 5mg</td> <td>1錠 朝食後</td> </tr> <tr> <td>バルサルタン 40mg</td> <td>1錠 夕食後</td> </tr> </table> <p><介入後：6剤></p> <table> <tr> <td>カロナール 200mg</td> <td>疼痛時</td> </tr> <tr> <td>アルファカルシドール 1μg</td> <td>1錠 朝食後</td> </tr> <tr> <td>リマプロストアルファデクス錠 5μg</td> <td>3錠 毎食後</td> </tr> <tr> <td>ドパコール配合錠 L100</td> <td>3錠 毎食後</td> </tr> <tr> <td>トレリーフ錠 25mg(ゾニサミド 25mg)</td> <td>1錠 夕食後</td> </tr> <tr> <td>バルサルタン 40mg</td> <td>1錠 夕食後</td> </tr> </table> | カロナール 200mg | 疼痛時 | アルファカルシドール 1 μ g | 1錠 朝食後 | リマプロストアルファデクス錠 5 μ g | 3錠 毎食後 | ドパコール配合錠 L100 | 3錠 毎食後 | トレリーフ錠 25mg(ゾニサミド 25mg) | 1錠 夕食後 | アムロジピン口腔内崩壊錠 5mg | 1錠 朝食後 | バルサルタン 40mg | 1錠 夕食後 | カロナール 200mg | 疼痛時 | アルファカルシドール 1 μ g | 1錠 朝食後 | リマプロストアルファデクス錠 5 μ g | 3錠 毎食後 | ドパコール配合錠 L100 | 3錠 毎食後 | トレリーフ錠 25mg(ゾニサミド 25mg) | 1錠 夕食後 | バルサルタン 40mg | 1錠 夕食後 |
| カロナール 200mg | 疼痛時 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アルファカルシドール 1 μ g | 1錠 朝食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| リマプロストアルファデクス錠 5 μ g | 3錠 毎食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ドパコール配合錠 L100 | 3錠 毎食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| トレリーフ錠 25mg(ゾニサミド 25mg) | 1錠 夕食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アムロジピン口腔内崩壊錠 5mg | 1錠 朝食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| バルサルタン 40mg | 1錠 夕食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| カロナール 200mg | 疼痛時 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アルファカルシドール 1 μ g | 1錠 朝食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| リマプロストアルファデクス錠 5 μ g | 3錠 毎食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ドパコール配合錠 L100 | 3錠 毎食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| トレリーフ錠 25mg(ゾニサミド 25mg) | 1錠 夕食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| バルサルタン 40mg | 1錠 夕食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 服薬管理 | 管理者：本人 管理方法：PTPシート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 経過 | <p><介入のきっかけ> 患者本人からの聞き取りにより、ふらつきにより車いすから転倒しそうになるなど、降圧剤による副作用が疑われる症状を確認したため。</p> <p><介入のポイント> 患者からの聞き取りにより、転倒のリスクが高いことを確認した。 すでに血圧が十分低く高齢であるため、降圧剤の減薬や中断を検討いただきたいと連絡</p> <p><介入後の経過> 降圧剤のうちアムロジピンが削除となり、バルサルタンは継続にて経過観察中 本人はフラつきがましになったと話されている</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考文書 | 添付文書 高齢者の医薬品適正使用の指針 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 事例23：医薬品の副作用によるめまいの疑いがある事例 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------------------|--|-----------|-------|-----------|--------|---------------|-------|---------------|--------|-------------------------|--------|------------|--------|---------------|--------|--------------------------|--------|------------|--------|-------|--------|---------------|--------|-------------------------|--------|------------|--------|---------------|--------|--------------------------|--------|------------|--------|-------|--------|
| 療養環境 | 慢性期 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 問題点 | めまいの症状がある | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 患者背景 | 80代 男性 主症状：パーキンソン病、高血圧 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 処方 | <p><介入前：10剤></p> <table border="0"> <tr> <td>エバミール 1mg</td> <td>1錠 眠前</td> </tr> <tr> <td>ポララミン 2mg</td> <td>3錠 毎食後</td> </tr> <tr> <td>ブロチゾラム 0.25mg</td> <td>1錠 眠前</td> </tr> <tr> <td>トコフェロール 200mg</td> <td>3錠 毎食後</td> </tr> <tr> <td>リマプロストアルファデクス 5μg</td> <td>3錠 毎食後</td> </tr> <tr> <td>ムコスタ 100mg</td> <td>3錠 毎食後</td> </tr> <tr> <td>沈降炭酸 Ca 500mg</td> <td>3錠 毎食後</td> </tr> <tr> <td>オンブレス吸入用カプセル 150μg</td> <td>1日1回吸入</td> </tr> <tr> <td>フロセミド 10mg</td> <td>1錠 朝食後</td> </tr> <tr> <td>ミヤ BM</td> <td>6錠 毎食後</td> </tr> </table> <p><介入後：7剤></p> <table border="0"> <tr> <td>トコフェロール 200mg</td> <td>3錠 毎食後</td> </tr> <tr> <td>リマプロストアルファデクス 5μg</td> <td>3錠 毎食後</td> </tr> <tr> <td>ムコスタ 100mg</td> <td>3錠 毎食後</td> </tr> <tr> <td>沈降炭酸 Ca 500mg</td> <td>3錠 毎食後</td> </tr> <tr> <td>オンブレス吸入用カプセル 150μg</td> <td>1日1回吸入</td> </tr> <tr> <td>フロセミド 10mg</td> <td>1錠 朝食後</td> </tr> <tr> <td>ミヤ BM</td> <td>6錠 毎食後</td> </tr> </table> | エバミール 1mg | 1錠 眠前 | ポララミン 2mg | 3錠 毎食後 | ブロチゾラム 0.25mg | 1錠 眠前 | トコフェロール 200mg | 3錠 毎食後 | リマプロストアルファデクス 5 μ g | 3錠 毎食後 | ムコスタ 100mg | 3錠 毎食後 | 沈降炭酸 Ca 500mg | 3錠 毎食後 | オンブレス吸入用カプセル 150 μ g | 1日1回吸入 | フロセミド 10mg | 1錠 朝食後 | ミヤ BM | 6錠 毎食後 | トコフェロール 200mg | 3錠 毎食後 | リマプロストアルファデクス 5 μ g | 3錠 毎食後 | ムコスタ 100mg | 3錠 毎食後 | 沈降炭酸 Ca 500mg | 3錠 毎食後 | オンブレス吸入用カプセル 150 μ g | 1日1回吸入 | フロセミド 10mg | 1錠 朝食後 | ミヤ BM | 6錠 毎食後 |
| エバミール 1mg | 1錠 眠前 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ポララミン 2mg | 3錠 毎食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ブロチゾラム 0.25mg | 1錠 眠前 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| トコフェロール 200mg | 3錠 毎食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| リマプロストアルファデクス 5 μ g | 3錠 毎食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ムコスタ 100mg | 3錠 毎食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 沈降炭酸 Ca 500mg | 3錠 毎食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| オンブレス吸入用カプセル 150 μ g | 1日1回吸入 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| フロセミド 10mg | 1錠 朝食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ミヤ BM | 6錠 毎食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| トコフェロール 200mg | 3錠 毎食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| リマプロストアルファデクス 5 μ g | 3錠 毎食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ムコスタ 100mg | 3錠 毎食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 沈降炭酸 Ca 500mg | 3錠 毎食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| オンブレス吸入用カプセル 150 μ g | 1日1回吸入 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| フロセミド 10mg | 1錠 朝食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ミヤ BM | 6錠 毎食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 服薬管理 | 管理者：本人 管理方法：PTP シート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 経過 | <p><介入のきっかけ></p> <p>患者さんからの聞き取りにより、めまいの症状が出ていることを確認 睡眠薬とともにポララミン(抗コリン作用)も併用されており、リスクが高いと判断し処方医へ照会した</p> <p><介入のポイント></p> <p>めまいが出ている。睡眠薬の影響やポララミンでの抗コリン作用によるものが疑われる。 減薬や中止などを検討いただけないか？</p> <p><介入後の経過></p> <p>エバミール、ブロチゾラム、ポララミンの全てが削除となり、ベルソムラが追加で処方された。様子を見ているところ。(未だ来局なし)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考文書 | 高齢者の医薬品適正使用の指針 Beers criteria | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|--|---|
| 事例24：胸椎腰椎圧迫骨折から退院後受診の整形外科処方とかかりつけ内科処方に重複のあった事例 | |
| 療養環境 | 心筋梗塞発作で転倒し圧迫骨折⇒QOL低下⇒ペースメーカー挿入あり。骨折は徐々に回復中 |
| 問題点 | 整形外科と内科の両医師への情報共有依頼と、生活面での不安等を聞き取る |
| 患者背景 | 77歳 女性 主症状：2型糖尿病、高血圧、不眠症、脂質異常症、胸椎腰椎圧迫骨折 心筋梗塞発作で転倒し、救急搬送後にペースメーカー挿入⇒心臓の治療後に、転倒による圧迫骨折の治療⇒退院後、近くの整形外科受診⇒かかりつけ内科（糖尿病治療）受診 |
| 処方 | <p><介入前：14剤></p> <p>A 医院 イミダプリル錠 5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 シタグリプチン錠 50mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 アトルバスタチン錠 10mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 ミチグリニド錠 5mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食直前 プロチゾラム錠 0.25mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 眠前 スボレキサント錠 15mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 眠前 ラベプラゾールナトリウム錠 10mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 起床時 ニフェジピン徐放錠 20mg（24時間持続） 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝・夕食後</p> <p>B 医院 酸化マグネシウム錠 330mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 トラマドール徐放錠 100mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 ボノプラザン錠 10mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 ロキソプロフェン錠 60mg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝・夕食後 センノシド錠 12mg 1回2錠（頓服）便秘時 テリパラチド酢酸塩皮下注 28.2 μgオートインジェクター 1日1回 28.2 μg 週に2回</p> <p><介入後：12剤></p> <p>A 医院 イミダプリル錠 5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 シタグリプチン錠 50mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 アトルバスタチン錠 10mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 プロチゾラム錠 0.25mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 眠前 スボレキサント錠 15mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 眠前 ニフェジピン徐放錠 20mg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝・夕食後</p> <p>B 医院 酸化マグネシウム錠 330mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 トラマドール徐放錠 100mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 ボノプラザン錠 10mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 ロキソプロフェン錠 60mg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝・夕食後 センノシド錠 12mg 1回2錠（頓服）便秘時 テリパラチド酢酸塩皮下注 28.2 μgオートインジェクター 1日1回 28.2 μg 週に2回</p> |
| 服薬管理 | 管理者：本人、配偶者 |
| 経過 | <p><介入のきっかけ></p> <p>問診等による他科受診の聞き取りや心筋梗塞後の経緯を確認し、家族からお薬手帳等を提出してもらった。</p> <p><介入のポイント></p> <p>薬の内容について、薬剤師からかかりつけ内科医に連絡する方がスムーズに事が進むと思いい、A 医院に報告連絡することを提案し、本人・家族の了解が得られた。</p> |

| | |
|------|--|
| | <p><介入後の経過></p> <p>重複していたPPIのラベプラゾール錠が中止となった。また、血液検査結果（血糖値等が改善していた）を医師に報告し、実際に受診時に見て頂き、糖尿病薬が1剤減量（ミチグリニド口腔内崩壊錠が中止）となった。</p> |
| 参考文献 | 特になし |

| 事例 25 : コロナ対応により他院受診 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------------|--|---------|---------|-------|----------------|---------|-------|---------------|---------|------|---------|---------|------|---------|---------|-------|----------------|---------|-------|---------------|---------|------|
| 療養環境 | 急性期 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 問題点 | 医療連携の不足、服用薬剤の把握の不足 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 患者背景 | 80代 女性 主症状：膀胱炎 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 処方 | <p><介入前：4剤></p> <table border="0"> <tr> <td>ミヤ BM 錠</td> <td>6 錠 毎食後</td> <td>28 日分</td> </tr> <tr> <td>ネキシウムカプセル 20mg</td> <td>1 錠 夕食後</td> <td>28 日分</td> </tr> <tr> <td>クラビット 500mg 錠</td> <td>1 錠 朝食後</td> <td>7 日分</td> </tr> <tr> <td>ミヤ BM 錠</td> <td>3 錠 毎食後</td> <td>7 日分</td> </tr> </table> <p><介入後：3剤></p> <table border="0"> <tr> <td>ミヤ BM 錠</td> <td>6 錠 毎食後</td> <td>28 日分</td> </tr> <tr> <td>ネキシウムカプセル 20mg</td> <td>1 錠 夕食後</td> <td>28 日分</td> </tr> <tr> <td>クラビット 500mg 錠</td> <td>1 錠 朝食後</td> <td>7 日分</td> </tr> </table> | ミヤ BM 錠 | 6 錠 毎食後 | 28 日分 | ネキシウムカプセル 20mg | 1 錠 夕食後 | 28 日分 | クラビット 500mg 錠 | 1 錠 朝食後 | 7 日分 | ミヤ BM 錠 | 3 錠 毎食後 | 7 日分 | ミヤ BM 錠 | 6 錠 毎食後 | 28 日分 | ネキシウムカプセル 20mg | 1 錠 夕食後 | 28 日分 | クラビット 500mg 錠 | 1 錠 朝食後 | 7 日分 |
| ミヤ BM 錠 | 6 錠 毎食後 | 28 日分 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ネキシウムカプセル 20mg | 1 錠 夕食後 | 28 日分 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| クラビット 500mg 錠 | 1 錠 朝食後 | 7 日分 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ミヤ BM 錠 | 3 錠 毎食後 | 7 日分 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ミヤ BM 錠 | 6 錠 毎食後 | 28 日分 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ネキシウムカプセル 20mg | 1 錠 夕食後 | 28 日分 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| クラビット 500mg 錠 | 1 錠 朝食後 | 7 日分 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 服薬管理 | 管理者：本人 管理方法：PTP シート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 経過 | <p><介入のきっかけ></p> <p>発熱し、コロナ対応となったためかかりつけ医を受診することができなかった。膀胱炎だったため抗生剤が出たが、現在服用している薬剤の把握ができず整腸剤が重複してしまった。</p> <p><介入のポイント></p> <p>コロナ対応では普段の医療機関に受診できないことも多く、定時の薬剤の情報を共有することが困難な場合が多い。</p> <p>薬剤師が管理することで重複解消となった。</p> <p><介入後の経過></p> <p>ミヤ BM が削除となった。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考文書 | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 事例 26 : 服薬コンプライアンス懸念がある事例 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------|--|--------------|--------|--------------|--------|-------------|--------|--------------|--------|---------|-----|--------------|--------|--------------|--------|-------------|--------|---------|-----|
| 療養環境 | 慢性期 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 問題点 | 副作用の発現、服薬コンプライアンス不良 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 患者背景 | 60代 女性 主症状：高血圧、慢性胃炎 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 処方 | <p><介入前：5剤></p> <table> <tr> <td>アムロジピン 2.5mg</td> <td>1錠 夕食後</td> </tr> <tr> <td>ファモチジン錠 20mg</td> <td>1錠 夕食後</td> </tr> <tr> <td>ガスサール錠 40mg</td> <td>3錠 毎食後</td> </tr> <tr> <td>バルサルタン錠 80mg</td> <td>1錠 夕食後</td> </tr> <tr> <td>モーラステープ</td> <td>70枚</td> </tr> </table> <p><介入後：4剤></p> <table> <tr> <td>アムロジピン 2.5mg</td> <td>1錠 夕食後</td> </tr> <tr> <td>ファモチジン錠 20mg</td> <td>1錠 夕食後</td> </tr> <tr> <td>ガスサール錠 40mg</td> <td>3錠 毎食後</td> </tr> <tr> <td>モーラステープ</td> <td>70枚</td> </tr> </table> | アムロジピン 2.5mg | 1錠 夕食後 | ファモチジン錠 20mg | 1錠 夕食後 | ガスサール錠 40mg | 3錠 毎食後 | バルサルタン錠 80mg | 1錠 夕食後 | モーラステープ | 70枚 | アムロジピン 2.5mg | 1錠 夕食後 | ファモチジン錠 20mg | 1錠 夕食後 | ガスサール錠 40mg | 3錠 毎食後 | モーラステープ | 70枚 |
| アムロジピン 2.5mg | 1錠 夕食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ファモチジン錠 20mg | 1錠 夕食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ガスサール錠 40mg | 3錠 毎食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| バルサルタン錠 80mg | 1錠 夕食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| モーラステープ | 70枚 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アムロジピン 2.5mg | 1錠 夕食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ファモチジン錠 20mg | 1錠 夕食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ガスサール錠 40mg | 3錠 毎食後 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| モーラステープ | 70枚 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 服薬管理 | 管理者：本人 管理方法：PTP シート | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 経過 | <p><介入のきっかけ></p> <p>前回、バルサルタンが追加となり、悪心を経験したため、自己判断で服用を中止していた。医師に伝えられておらず、継続して処方されていた。</p> <p><介入のポイント></p> <p>医師には相談しにくいことも、薬剤師には話してくれることも多い。信頼関係が構築されていることが重要であると考えた。</p> <p><介入後の経過></p> <p>アムロジピン単剤で経過観察することとなった。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参考文書 | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

薬局から医療機関へ
退院時服薬情報提供書に基づく
患者フォローをした事例

| 事例1：術後に痛み止めが調整された患者に対する退院後のフォローについて | |
|-------------------------------------|--|
| 患者背景 | 73歳女性 手術目的で入院 入院期間：20日間 |
| 処方 | <p><入院前：11剤> A 医院（服用中） エリスロマイシン錠 200mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 カルボシステイン錠 500mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 B 医院 ※持参していたが服用していない ロキソプロフェン錠 60mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 レバミピド錠 100mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 C 医院 ※持参していたが服用していない モサプリド錠 5mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食前 ボノプラザン錠 10mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 夕食後 メトクロプラミド錠 5mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食前 D 医院 ※持参していたが服用していない ロキソプロフェン錠 60mg 1回1錠（頓服）痛い時 レバミピド錠 100mg 1回1錠（頓服）痛い時 テプレノンカプセル 50mg 1回1カプセル（頓服）必要時 E 歯科 ※持参していたが服用していない セフカペンピボキシル錠 100mg 1回1錠（1日3錠）毎食後</p> <p><退院時：3剤> エリスロマイシン錠 200mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 カルボシステイン錠 500mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 アセトアミノフェン錠 500mg 1回1錠（1日4錠）1日4回 毎食後寝る前</p> <p><その後：2剤> エリスロマイシン錠 200mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 カルボシステイン錠 500mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後</p> |
| 入院～退院の経過 | 本人の薬剤についての理解度は良好であり、入院中の薬の管理は本人でされている。 A 医院のみを定期内服されていた。術後は痛み止めが処方となっている。 |
| 退院後の経過 | 飲み忘れはなく、アドヒアランス良好です。アセトアミノフェンの服用により下痢症状があったが、術後の痛みは現在ほとんど感じておられないとのことで、痛み止めは服用されていない。 |
| 多職種との情報共有の有無 | 特になし |
| 備考 | |

| 事例2：退院患者における減薬調整後のフォロー | |
|------------------------|--|
| 患者背景 | 70歳女性 嘔気、食欲不振にて入院 入院期間：11日間 |
| 処方 | <p><入院前：8剤> ロキソプロフェン錠 60mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 テプレノンカプセル 50mg 1回1カプセル（1日3カプセル）1日3回 毎食後 乾燥硫酸鉄徐放錠 105mg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝夕食後 プロチゾラム OD錠 0.25mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 眠前 酸化マグネシウム錠 330mg 1回2錠（1日6錠）1日3回 毎食後 オメプラゾール腸溶錠 20mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 オキシコドン徐放カプセル 5mg 1回2カプセル（1日4カプセル）1日2回 朝夕食後 オキシコドン塩酸塩散 10mg 1回1包（頓服）痛いとき</p> <p><退院時：6剤> ロキソプロフェン錠 60mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 プロチゾラム OD錠 0.25mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 眠前 酸化マグネシウム錠 330mg 1回2錠（1日6錠）1日3回 毎食後 ランソプラゾール OD錠 15mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 オキシコドン徐放カプセル 5mg 1回2カプセル（1日4カプセル）1日2回 朝夕食後 オキシコドン錠 5mg 1回1錠（頓服）痛いとき</p> |
| 入院～退院の経過 | 入院中に制吐剤治療を行い症状改善している。ヘモグロビン値13と貧血改善し、乾燥硫酸鉄徐放錠は中止となり、PPIの継続となるためテプレノンは処方中止となる。 オキシコドン徐放カプセル 5mg 1回2カプセル（1日4カプセル）1日2回 朝夕食後で疼痛コントロール良好であり、レスキューはオキシコドン錠 5mg 1回1錠に変更となっている。現在レスキューは使用されていない。 |
| 退院後の経過 | レスキューは退院時処方分が少し残っているため、退院後の受診時には処方は中止となる。使用頻度は少なく、コントロールができている様子。突発的な痛みで使用と理解しておられるが、レスキューの手持ちがなくなった際には診察日でない際でも電話にて病院に相談するように説明をおこなっている。他は、症状悪化もなく安定している。 |
| 多職種との情報共有の有無 | 特になし |
| 備考 | |

| 事例3：脳梗塞にて入院され、薬剤が変更となった患者のフォロー | |
|--------------------------------|--|
| 患者背景 | 71歳女性 脳梗塞で入院 入院期間：11日間 |
| 処方 | <p><入院前：13剤> サラゾスルファピリジン腸溶錠 500mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ランソプラゾールカプセル 15mg 1回1カプセル (1日1カプセル) 1日1回 朝食後 アルファカルシドール錠 1μg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後 L-アスパラギン酸カルシウム錠 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後 アスコルビン酸・パントテン酸カルシウム顆粒 1回1g (1日2g) 1日2回 朝夕食後 オクトチアミン・B2・B6・B12配合剤錠 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝夕食後 アクタリット錠 100mg 1回1錠 (1日3錠) 1日3回 毎食後 アデノシン三リン酸二ナトリウム顆粒 10% 1回1g (1日3g) 1日3回 毎食後 酪酸菌配合剤散 1回0.5g (1日1.5g) 1日3回 毎食後 ドンペリドン錠 10mg 1回1錠 (頓服) 必要時 葛根湯エキス顆粒 1回2.5g 五苓散エキス顆粒 1回2.5g テプレノン細粒 1回0.5g</p> <p><退院時：16剤> サラゾスルファピリジン腸溶錠 500mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 アルファカルシドール錠 1μg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後 L-アスパラギン酸カルシウム錠 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後 アスコルビン酸・パントテン酸カルシウム顆粒 1回1g (1日2g) 1日2回 朝夕食後 オクトチアミン・B2・B6・B12配合剤錠 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝夕食後 アクタリット錠 100mg 1回1錠 (1日3錠) 1日3回 毎食後 アデノシン三リン酸二ナトリウム顆粒 10% 1回1g (1日3g) 1日3回 毎食後 酪酸菌配合剤散 1回0.5g (1日1.5g) 1日3回 毎食後 ドンペリドン錠 10mg 1回1錠 (頓服) 必要時 葛根湯エキス顆粒 1回2.5g 五苓散エキス顆粒 1回2.5g テプレノン細粒 10% 1回0.5g アピキサバン錠 2.5mg 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝夕食後 ビソプロロール錠 2.5mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後 ファモチジンD錠 20mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ロスバスタチンOD錠 2.5mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後</p> <p><その後：15剤> ファモチジン錠は処方中止となり他の医薬品は継続。</p> |
| 入院～退院の経過 | 入院中、心房細動が見つかり、アピキサバンとビソプロロールの内服開始となる。アピキサバンは HAS-BLED スコアによる出血リスクの評価から 5mg/日と添付文書より少ない量から開始となっている。ファモチジンが入院中から服用となったので、ランソプラゾールの服用は中止となった。 |
| 退院後の経過 | 退院時の処方から、ファモチジンD錠 20mg は処方中止となった。ランソプラゾールが追加されることもなく、胃薬は現在服用されていない。そのほかの薬剤については継続で服用されている。飲み忘れもなく、服用もなく安定している。 |
| 多職種との情報共有の有無 | 特になし |
| 備考 | |

| 事例4：退院患者における減薬調整後のフォロー | |
|------------------------|---|
| 患者背景 | 88歳女性 入院期間：7日間 |
| 処方 | <p><入院前：21剤> アンブロキシール錠 15mg 1回1錠 (1日3錠) 1日3回 毎食後 酪酸菌製剤錠 1回1錠 (1日3錠) 1日3回 毎食後 ウラピジル徐放カプセル 15mg 1回1カプセル (1日2カプセル) 1日2回 朝夕食後 エソメプラゾールカプセル 20mg 1回1カプセル (1日1カプセル) 1日1回 朝食後 ルビプロストンカプセル 24μg 1回1カプセル (1日2カプセル) 1日2回 朝夕食後 酸化マグネシウム錠 330mg 1回1錠 (1日4錠) 1日4回 毎食後寝る前 エリスロマイシン錠 200mg 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝夕食後 ニフェジピン徐放錠 (24時間持続) 20mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 塩化カリウム徐放錠 600mg 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝夕食後 大建中湯エキス顆粒 1回2.5g (1日7.5g) 1日3回 毎食後 プロチゾラムOD錠 0.25mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 寝る前 クロルジアゼポキシド散 1% 1回10mg (1日10mg) 1日1回 夕食後 アスピリン腸溶錠 100mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 クエン酸第一鉄ナトリウム錠 50mg 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝夕食後 アゾセミド錠 60mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 アゾセミド錠 30mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ピコスルファートナトリウム 0.75%液 便秘時 プロカテロール塩酸塩水和物吸入剤 0.3mL 1日3回 フルチカゾンプロピオン酸エステル・ホルモテロールフマル酸塩水和物吸入剤 1日2回・1回2吸入 クロモグリク酸ナトリウム吸入剤 1% 1日3回 硝酸イソソルビド貼付剤 40mg 1日1枚</p> <p><退院時：19剤> アンブロキシール錠 15mg 1回1錠 (1日3錠) 1日3回 毎食後 ウラピジル徐放カプセル 15mg 1回1カプセル (1日2カプセル) 1日2回 朝夕食後 ランソプラゾールOD錠 15mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後 薬剤 ルビプロストンカプセル 12μg 1回1カプセル (1日2カプセル) 1日2回 朝夕食後 酸化マグネシウム錠 330mg 1回1錠 (1日4錠) 1日4回 毎食後寝る前 エリスロマイシン錠 200mg 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝夕食後 ニフェジピン徐放錠 (24時間持続) 20mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 塩化カリウム徐放錠 600mg 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝夕食後 大建中湯エキス顆粒 1回2.5g (1日7.5g) 1日3回 毎食後 プロチゾラムOD錠 0.25mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 寝る前 クロルジアゼポキシド散 1% 1回10mg (1日10mg) 1日1回 夕食後 アスピリン腸溶錠 100mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 アゾセミド錠 60mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 アゾセミド錠 30mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 プロカテロール塩酸塩水和物吸入剤 0.3mL 1日3回 フルチカゾンプロピオン酸エステル・ホルモテロールフマル酸塩水和物吸入剤 1日2回・1回2吸入 クロモグリク酸ナトリウム吸入剤 1% 1日3回 硝酸イソソルビド貼付剤 40mg 1日1枚 アセトアミノフェン錠 200mg 1回2錠 (1日6錠) 1日3回 毎食後</p> |

| | |
|--------------|---|
| 入院～退院の経過 | アンブロキソール錠はこれまでの経緯を考慮し処方継続。血清鉄が改善後半年以上経過しているのでクエン酸第一鉄について中止し、症状がないため酪酸菌製剤錠についても中止となる。PPIについては、病院採用薬に変更している。 |
| 退院後の経過 | アドヒアランスは悪く飲み忘れが数回あり、気が付いたら服用している。かかりつけ医の処方より、アゼセミドが中止となる。本人は尿が出なくなるのではないかと心配されている様子。ルビプロストンカプセル退院時は12 μ g 1日2カプセルであったが、入院前の24 μ g 1日2カプセルに再開となっている。胃腸の症状や貧血症状についてはなく安定している。 |
| 多職種との情報共有の有無 | 特になし |
| 備考 | |

| 事例5：退院患者における減薬調整後のフォロー | |
|------------------------|--|
| 患者背景 | 83歳男性 喘息悪化、浮腫にて入院 入院期間：8日間 |
| 処方 | <p><入院前：14剤> スルファメトキサゾール・トリメトプリム錠 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 週3日 プレドニゾロン錠5mg 1回6錠（1日6錠）1日1回 朝食後 アゾセמיד錠60mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 デュタステリドカプセル0.5mg 1回1カプセル（1日1カプセル）1日1回 朝食後 ジスチグミン錠5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 ボノプラザン錠10mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 シロドシンOD錠4mg 1回1錠（1日2錠）1日1回 朝食後寝る前 酪酸菌製剤錠 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝夕食後 レバミピド錠100mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 レボセチリジン塩酸塩錠5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 寝る前 タダラフィル錠5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 寝る前 ミラベグロン錠50mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 寝る前 デスマプレシン酢酸塩水和物OD錠60mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 寝る前 ブデソニド・ホルモテロール吸入剤 1回1吸入（1日2吸入）1日2回 吸入</p> <p><退院時：8剤> スルファメトキサゾール・トリメトプリム錠 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 週3日 プレドニゾロン錠5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 プレドニゾロン錠1mg 1回3錠（1日3錠）1日1回 朝食後 減量 デュタステリドカプセル0.5mg 1回1カプセル（1日1カプセル）1日1回 朝食後 ジスチグミン錠5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 ボノプラザン錠10mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 シロドシンOD錠4mg 1回1錠（1日2錠）1日1回 朝食後寝る前 タダラフィル錠5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 寝る前 ブデソニド・ホルモテロール吸入剤 1回1吸入（1日2吸入）1日2回 吸入</p> <p><その後：9剤> 退院時の処方内容にアゾセמידが再開となった</p> |
| 入院～退院の経過 | 入院後、ステロイド、短時間作用型β2刺激薬の使用により喘息症状は安定している。浮腫については薬剤性（デスマプレシン錠による）も疑われるため処方を中止とし、利尿剤の内服で症状改善している。前立腺肥大がもともとあり、泌尿器科での診察にて、尿閉との診断を受け、尿道バルーン留置となるためミラベグロン錠は中止となる。その他の前立腺肥大症の薬剤については継続となっている。またポリファーマシーの観点よりレボセチリジン、レバミピド、酪酸菌製剤錠は処方中止となった。 |
| 退院後の経過 | 退院後に再び浮腫がみられたため、アゾセמידが再開となる。飲み忘れなどはなくアドヒアランスも良好。ポリファーマシーの観点で減薬が行われた薬剤については再開することなく症状の悪化もなく継続している。 |
| 多職種との情報共有の有無 | 特になし |
| 備考 | |

| 事例6：入院中に薬剤が変更となる退院患者におけるフォロー | |
|------------------------------|--|
| 患者背景 | 86歳 男性 糖尿病教育入院 入院期間：8日間 |
| 処方 | <p><入院前：7剤></p> <p>ピタバスタチン錠 2mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 アジルサルタン錠 40mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 メトホルミン錠 250mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 アムロジピン錠 5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 グリクラジド錠 40mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 ビカルタミド錠 80mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 リラグルチド皮下注 18mg 夕食前</p> <p><退院時：6剤></p> <p>ピタバスタチン錠 2mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 メトホルミン錠 250mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 アムロジピン錠 5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 グリクラジド錠 40mg 1回2.5錠（1日2.5錠）1日1回 朝食後 ビカルタミド錠 80mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 リラグルチド皮下注 18mg 夕食前</p> <p><その後：6剤></p> <p>退院時処方継続</p> |
| 入院～退院の経過 | アジルサルタン錠を中止し、血圧100～110程度で推移している。グリクラジドの用量を調整し、2.5錠へ増量している。 |
| 退院後の経過 | 残薬なくアドヒアランス良好で外来に移行後も薬の変更はない。薬の管理は同居されていない家族であり、薬を分けるのが大変と相談を受けたため、一包化について提案し、希望があれば次回先生に相談いただくよう伝えた。低血糖などの副作用もない。 |
| 多職種との情報共有の有無 | 特になし |
| 備考 | |

| 事例7：減薬調整が行われた退院患者へのフォロー | |
|-------------------------|---|
| 患者背景 | 82歳 女性 入院期間：9日間 |
| 処方 | <p><入院前：9剤> レボドパ・カルビドパ配合錠 100 1回1錠 (1日3錠) 1日3回 毎食後 ロピニロール錠 2mg 1回1錠 (1日3錠) 1日3回 毎食後 プラバスタチン錠 5mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 フロセミド錠 20mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 酸化マグネシウム錠 330mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 コハク酸ソリフェナシン錠 5mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ラサギリン錠 0.5mg 1回2錠 (1日2錠) 1日1回 朝食後 オメプラゾール錠 10mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後 センノシド錠 12mg 1回2錠 (1日2錠) 1日1回 寝る前</p> <p><退院時：6剤> レボドパ・カルビドパ配合錠 100 1回1錠 (1日3錠) 1日3回 毎食後 ロピニロール徐放錠 2mg 1回3錠 (1日3錠) 1日1回 朝食後 酸化マグネシウム錠 330mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 コハク酸ソリフェナシン錠 5mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 センノシド錠 12mg 1回2錠 (1日2錠) 1日1回 寝る前 (ラサギリン錠 0.5mg 1回2錠 (1日2錠) 1日1回 朝食後) ⇒採用なく退院前に薬剤切れる。</p> <p><その後：9剤> レボドパ・カルビドパ配合錠 100 1回1錠 (1日3錠) 1日3回 毎食後 ロピニロール錠 2mg 1回1錠 (1日3錠) 1日3回 毎食後 プラバスタチン錠 5mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 フロセミド錠 20mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 酸化マグネシウム錠 330mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 コハク酸ソリフェナシン錠 5mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ラサギリン錠 0.5mg 1回2錠 (1日2錠) 1日1回 朝食後 オメプラゾール錠 10mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後 センノシド錠 12mg 1回2錠 (1日2錠) 1日1回 寝る前</p> |
| 入院～退院の経過 | 入院中はレボドパ・カルビドパ配合錠、ロピニロール錠、ラサギリン錠のみ継続服用。ロピニロール錠は院内採用が徐放錠であったため、用法を分1に変更している。施設より退院時処方14日分依頼されたが、ラサギリン錠は当院採用が無いため退院処方が出ていない。継続と思われるためかかりつけ医にて処方確認をお願いしたい。 入院中はバイタル等安定していたためプラバスタチン、フロセミド、オメプラゾールを中止している。継続の可否についてはかかりつけ医の判断とさせていただく形へ。 |
| 退院後の経過 | かかりつけ医と訪問看護師に入院中減薬になった旨を報告したうえで、入院前処方と同じ処方が出ている事に疑義照会を行った。かかりつけ医からはもとの処方に戻すとの回答があり、現在は9剤服用している。 |
| 多職種との情報共有の有無 | 訪問看護師、ケアマネージャーに薬剤が退院処方から変更になった件を情報共有した。 |
| 備考 | |

| 事例 8 : 退院患者における減薬調整後のフォロー | |
|---------------------------|--|
| 患者背景 | 87 歳 男性 発作性心房細動で入院 入院期間 : 15 日間 |
| 処方 | <p><入院前 : 10 剤></p> <p>シタグリプチン錠 50mg g 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 朝食後 アズセミド錠 30mg g 1 回 0.5 錠 (1 日 0.5 錠) 1 日 1 回 朝食後 アジルサルタン 20mg アムロジピン 5mg 配合錠 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 朝食後 アムロジピン錠 5mg g 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 朝食後 ボノプラザン錠 10mg g 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 夕食後 アトルバスタチン錠 10mg g 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 夕食後 カルベジロール錠 2.5mg g 1 回 1 錠 (1 日 2 錠) 1 日 2 回 朝夕食後 酸化マグネシウム錠 330mg g 1 回 2 錠 (1 日 4 錠) 1 日 2 回 朝夕食後 プロチゾラム錠 0.25mg g 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 寝る前 スボレキサント錠 15mg g 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 寝る前</p> <p><退院時 : 8 剤></p> <p>ボノプラザン錠 10mg g 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 夕食後 アトルバスタチン錠 10mg g 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 夕食後 カルベジロール錠 2.5mg g 1 回 1 錠 (1 日 2 錠) 1 日 2 回 朝夕食後 酸化マグネシウム錠 330mg g 1 回 1 錠 (1 日 2 錠) 1 日 2 回 朝夕食後 プロチゾラム錠 0.25mg g 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 寝る前 スボレキサント錠 15mg g 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) 1 日 1 回 寝る前 アジルサルタン錠 40mg g 1 回 0.5 錠 (1 日 0.5 錠) 1 日 1 回 朝食後 エドキサバン錠 60mg g 1 回 0.5 錠 (1 日 0.5 錠) 1 日 1 回 朝食後</p> <p><その後 : 8 剤></p> <p>血圧が一時的に上昇し薬剤追加があったが、しばらくして安定したため、退院時の処方を継続</p> |
| 入院 ~ 退院の経過 | 心不全予防を考えペースメーカーの留置と β -ブロッカー内服としてカルベジロール錠 2.5mg を継続。入院中、HbA1c=6.1 だったことよりシタグリプチン錠は中止となる。発作性心房細動に対して抗凝固療法開始にて 11/5~エドキサバン錠を開始となる。血圧は 100 前後で推移のため、アジルサルタン錠へ薬剤変更となる。 |
| 退院後の経過 | 入院中の安静状態から日常生活に戻り、一時的に血圧上昇が見られた為、アジルサルタン錠がアジルサルタン 20mg アムロジピン 5mg 配合錠に戻った。その後血圧が落ち着いたのでアジルサルタン錠 20mg g に戻った。今現在血圧 140 前後とやや高めだが、アジルサルタン錠 20mg で経過観察。寒いため、自宅にてルームランナーで運動をされており、薬局からも継続して行うようフォローしている。 |
| 多職種との情報共有の有無 | 特になし |
| 参考文献 | |

| 事例9：退院患者における減薬調整後のフォロー | |
|------------------------|---|
| 療養環境 | 在宅にて療養 |
| 患者背景 | 85歳 女性 独居 IgM高値のため、マクログロブリン血症の疑いで入院 入院期間：11日間 自宅での薬剤の管理：家族 管理方法：一包化（用法印字） |
| 処方 | <p><入院前：13剤></p> <p>A 医院</p> <p>シダグリブチン錠 50mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 エドキサバン錠 30mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 テルミサルタン錠 40mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 エルデカルシトールカプセル 0.75μg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 グリメピリド錠 0.5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 酸化マグネシウム錠 330mg 1回2錠（1日6錠）1日3回 毎食後 酪酸菌配合錠 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 ベラパミル塩酸塩錠 40mg 1回1錠（頓服）動悸時 シベンゾリンコハク酸塩錠 50mg 1回1錠（頓服）動悸時</p> <p>B 医院</p> <p>スルピリド錠 50mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 ビペリデン錠 1mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 ロフラゼブ酸エチル錠 1mg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝食後・寝る前 ミルナシブラン錠 15mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 寝る前</p> <p><退院時：12剤></p> <p>シダグリブチン錠 50mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 エドキサバン錠 30mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 テルミサルタン錠 40mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 グリメピリド錠 0.5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 酸化マグネシウム錠 330mg 1回2錠（1日6錠）1日3回 毎食後 酪酸菌配合錠 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 ベラパミル塩酸塩錠 40mg 1回1錠（頓服）動悸時 シベンゾリンコハク酸塩錠 50mg 1回1錠（頓服）動悸時 ロフラゼブ酸エチル錠 1mg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝食後・寝る前 ミルナシブラン錠 25mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 寝る前 チラブルチニブ錠 80mg 1回6錠（1日6錠）1日1回 寝る前 スルファメトキサゾール・トリメトプリム錠 1回1錠（1日1錠）1日1回 週3回朝食後</p> |
| 入院～退院の経過 | <p>入院後ベンダムスチン単剤による化学療法施行となり大きな有害事象なく経過していたが、期待したほどの治療効果が得られず、ベレキシブル錠が開始となる。内服開始後皮疹等は出現していないが、1～2か月は注意が必要のため来局時は聴取をお願いしたい。</p> <p>マクログロブリン血症の影響で両眼とも視力低下があり、薬は病院側で管理していた。独居の為、退院後は家族のサポートを受けながら内服継続予定である。</p> <p>入院時に高Ca血症を認め、エルデカルシトールを中止。その後も高値を推移していたため退院時も中止となっている。</p> <p>スルピリド、ビペリデン入院後中止となっていたが、特に症状が出ることなく経過。スルファメトキサゾール、トリメトプリム配合錠はPCP（ニューモシスチス肺炎）予防目的で内服開始。退院後は当院外来で内服治療予定。</p> |

| | |
|----------------|---|
| 減薬後の経過 | <p>退院後副作用は見られず、家族の介護でコンプライアンスも問題無く管理されている状態であった。チラブルチニブ錠の皮膚掻痒の予防投与のため推奨である抗ヒスタミン剤の処方提案した。また、薬剤に関する事では無いが、患者様によっては治療費用が高額となるため、高額医療について病院での助言があると良い旨を提案した。また、疾患による手足のしびれが少しあり悩んでおられることを情報提供した。</p> <p>退院後、A 医院の処方においてエルデカルシトールが再開となっていたのでご家族にお話しを伺ったところ再開理由は不明であったため、薬剤師サマリについて処方医に説明したところ中止となり、その後も問題なく治療に励まれている。</p> |
| 多職種などとの情報共有の有無 | なし |
| 備考 | 入退院時の服用薬の変化について理由を説明することが、家族の安心感につながった。 |

| 事例10：退院患者における減薬調整後のフォロー | |
|-------------------------|--|
| 患者背景 | 87歳 女性 尿路感染にて入院 入院期間：9日間 |
| 処方 | <p><入院前：10剤> ファモチジン錠10mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 ニフェジピン徐放錠（24時間持続）20mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 インダパミド錠1mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 ドネペジル錠5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 イコサペント酸エチル粒状カプセル900mg 1回1包（1日1包）1日1回 朝食後 アテノロール錠25mg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝夕食後 ベニジピン錠4mg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝夕食後 酸化マグネシウム錠330mg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝夕食後 アロプリノール錠100mg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝夕食後 ラメルテオン錠8mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 寝る前</p> <p><退院時：9剤> ニフェジピン徐放錠（24時間持続）20mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 ドネペジル錠5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 レバミピド錠100mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 リナグリプチン錠5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 アテノロール錠25mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 ベニジピン錠4mg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝夕食後 酸化マグネシウム錠330mg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝夕食後 セレコキシブ錠100mg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝夕食後 ラメルテオン錠8mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 寝る前</p> <p><その後：9剤> 退院時の処方内容継続</p> |
| 入院～退院の経過 | 入院時 HbA1c：12.7%と高値を示していたことから糖尿病薬開始。退院時にはリナグリプチンが内服継続となる。疼痛コントロールのためセレコキシブ開始となる。入院前の内服薬は大幅に見直しがされ減薬となる。 |
| 退院後の経過 | 退院後内服薬に変更はなく、アドヒアランスや副作用も問題なく継続している。 |
| 多職種との情報共有の有無 | グループホームに、入院中に変更になった薬剤について情報提供をおこなった。 |
| 備考 | |

| 事例 11 : 退院患者における減薬調整後のフォロー | |
|----------------------------|---|
| 患者背景 | 79歳 女性 手術の為入院 入院期間 : 10日間 |
| 処方 | <p><入院前 : 12剤> シタグリプチンリン酸塩水和物 50mg イプラグリフロジン L-プロリン 50mg 配合錠 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ベザフィブラート徐放錠 200mg 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝夕食後 メトホルミン塩酸塩錠 500mg 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝夕食後 ラベプラゾールナトリウム錠 20mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後 エピナスチン塩酸塩錠 20mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後 ミロガバリンベシル酸塩錠 5mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後 チザニジン錠 1mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後 モンテルカスト錠 10mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 寝る前 疎経活血湯エキス顆粒 1回 2.5mg (1日 7.5mg) 1日3回 毎食前 防風通聖散エキス顆粒 1回 2.5mg (1日 7.5mg) 1日3回 毎食前 芍薬甘草湯エキス顆粒 1回 2.5mg (頓服) 必要時 二相性イソフェンインスリン ヒト (遺伝子組換え) 水性懸濁注射液 1回 10単位 1日2回 朝夕直食前</p> <p><退院時 : 11剤> シタグリプチンリン酸塩水和物 50mg イプラグリフロジン L-プロリン 50mg 配合錠 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ベザフィブラート徐放錠 200mg 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝夕食後 メトホルミン塩酸塩錠 500mg 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝夕食後 ラベプラゾールナトリウム錠 20mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後 ミロガバリンベシル酸塩錠 5mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後 チザニジン錠 1mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 夕食後 疎経活血湯エキス顆粒 1回 2.5mg (1日 7.5mg) 1日3回 毎食前 防風通聖散エキス顆粒 1回 2.5mg (1日 7.5mg) 1日3回 毎食前 芍薬甘草湯エキス顆粒 1回 2.5mg (頓服) 必要時 二相性イソフェンインスリン ヒト (遺伝子組換え) 水性懸濁注射液 1回 10単位 1日2回 朝夕直食前 ロキソプロフェン錠 60mg 1回1錠 (頓服) 疼痛時</p> <p><その後 : 11剤> 退院時の処方内容継続</p> |
| 入院～退院の経過 | 鼻炎症状改善後も長期でエピナスチンを服用していたので、中止となった。モンテルカストは症状なく入院前より自己中断していたので入院後も再開無く中止。特に鼻炎症状など退院時まで特にない様子であった。 |
| 退院後の経過 | 退院後処方においてモンテルカスト、エピナスチンが再開になったため、患者本人に症状を確認したところ特にアレルギー症状は無いと伺ったため、処方医に入院中の経過と本人の様子を情報提供したところ中止となる。現状症状の悪化はない。 |
| 多職種との情報共有の有無 | かかりつけ医へ薬剤情報を提供 |
| 備考 | |

| 事例12：退院患者における減薬調整後のフォロー | |
|-------------------------|---|
| 患者背景 | 46歳女性 入院期間：8日間 |
| 処方 | <p><入院前：5剤> オルメサルタン錠 20mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 夕食後 アムロジピン錠 10mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 カルベジロール錠 2.5mg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝夕食後 ペマフィブラート錠 0.1mg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝夕食後 ビルダグリプチン 50mg メトホルミン 250mg 塩酸塩配合錠 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝夕食後</p> <p><退院時：4剤> オルメサルタン錠 20mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 夕食後 アムロジピン錠 5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 カルベジロール錠 2.5mg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝夕食後 ビルダグリプチン錠 50mg 1回1錠（1日2錠）1日2回 朝夕食後</p> <p><その後：4剤> 退院時の処方が継続している</p> |
| 入院～退院の経過 | 入院中、内服薬を変更した。入院当初、抗生剤はセファゾリン Na 注射用を施行しましたが口腔内苦味にてアンピシリンナトリウム・スルバクタムナトリウム静注用に変更。本人よりアレルギー・副作用歴記載あり。「スルファメトキサゾール・トリメトプリム錠・トリアムシノロンアセトニド注射液でアレルギー出たことあり。8月に服用したレボフロキサシン、デキストロメトルフアンでもぶつぶつ出ました」 |
| 退院後の経過 | 退院後1週間後に来局。診療所より退院時の処方継続となる。前日に37度の発熱があったが、現在は36度に落ち着いているとのこと。以前使用していたアセトアミノフェンが余っている。来月に東京に日帰りで行く予定と話される。副作用もなくアドヒアランスも良好で残薬なく、症状安定している。 |
| 多職種との情報共有の有無 | 特になし |
| 備考 | |

| 事例13：術後における薬剤変更のフォロー | |
|----------------------|--|
| 患者背景 | 84歳 女性 入院期間：14日間 |
| 処方 | <p><入院前：6剤> アムロジピン錠 2.5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 （朝の血圧110以下の場合は中止） アムロジピン錠 5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 酸化マグネシウム錠 330mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 リマプロストアルファデクス錠 5μg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 メコバラミン錠 500μg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 レボセチリジン錠 5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 寝る前 スボレキサント錠 15mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 寝る前</p> <p><退院時：4剤> アムロジピン錠 2.5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 （朝の血圧110以下の場合は中止） アムロジピン錠 5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 酸化マグネシウム錠 330mg 1回1錠（1日3錠）1日3回 毎食後 レボセチリジン錠 5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 寝る前 スボレキサント錠 15mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 寝る前</p> |
| 入院～退院の経過 | 主治医指示にて、リマプロストアルファデクスは術後再開もなし。メコバラミンも中止。鎮痛剤においても疼痛なく、順次終了している（アセトアミノフェン、ロキソプロフェン入院中服用、退院前までに服用終了している）。 |
| 退院後の経過 | 飲み忘れなくアドヒアランスも良好である。痛みなく問題なく過ごせていることを確認した。血圧も朝食後のアムロジピン 2.5mg を調節しながらの服用であるが落ち着いている。 |
| 多職種との情報共有の有無 | 特になし |
| 備考 | |

| 事例14：痙攣により入院し、薬剤変更が行われた患者へのフォロー | |
|---------------------------------|--|
| 患者背景 | 91歳 男性 痙攣発作により入院 入院期間：3日間 |
| 処方 | <p><入院前：2剤> 酸化マグネシウム錠 250mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後 ドネペジル錠 5mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後</p> <p><退院時：3剤> 抑肝散エキス顆粒 1回2.5g（1日7.5g）1日3回 毎食前 レベチラセタムシロップ 50% 1回125mg（1日250mg）1日2回 朝夕食後 酸化マグネシウム錠 250mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後</p> <p><その後：1剤> 酸化マグネシウム錠 250mg 1回1錠（1日1錠）1日1回 朝食後</p> |
| 入院～退院の経過 | クレアチニン値：2.55mg/dL、eGFR:19.09mL/min/1.73 m ² と腎機能低下し、ドネペジルの血中濃度上昇も疑われたため、ドネペジルの服用は中止。抗てんかん薬としてレベチラセタム開始。易怒性みられレベチラセタム減量+抑肝散開始となった。 |
| 退院後の経過 | レベチラセタムと抑肝散はかかりつけ医より退院時処方済みで飲み切り終了となった。ドネペジルは退院後継続して服用は中止している。 |
| 多職種との情報共有の有無 | ドネペジルが腎機能の低下により、中止となったことをケアマネージャー、訪問看護師、ご家族、ヘルパーへと情報共有を行った。 |
| 備考 | |

| 事例15：糖尿病教育目的の入院患者の退院後のフォロー | |
|----------------------------|--|
| 患者背景 | 55歳 男性 薬は自己管理で問題なく、理解度も良好 入院期間：8日間 糖尿病教育入院 |
| 処方 | <p><入院前：12剤></p> <p>A 医院 メトホルミン錠 250mg 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝夕食後</p> <p>B 医院 メトトレキサートカプセル 2mg 1回1錠・2錠 (1日3錠) 1日2回 朝 (2錠) 夕食後 (1錠) 水曜日 葉酸錠 5mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 木曜日 アスピリン腸溶錠 100mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ランソプラゾール口腔内崩壊錠 15mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ピタバスタチン錠 2mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 カルベジロール錠 10mg 1回1.5錠 (1日1.5錠) 1日1回 朝食後 アジルサルタン錠 40mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 アムロジピン錠 5mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 シタグリプチン錠 100mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ボグリボース錠 0.3mg 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝夕食直前</p> <p>C 医院 ドキシサイクリン錠 100mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後</p> <p><退院時：11剤></p> <p>アカルボース錠 50mg 1回1錠 (1日3錠) 1日3回 毎食直前 メトホルミン錠 250mg 1回1錠 (1日2錠) 1日2回 朝夕食後 ミチグリニド錠 10mg 1回1錠・0.5錠 (1日2錠) 1日3回 毎食直前 (朝1錠 昼0.5錠 夕0.5錠) リラグルチド皮下注 18mg/3ml 1回0.18mg (1日0.18mg) 1日1回 朝 メトトレキサートカプセル 2mg 1回1錠・2錠 (1日3錠) 1日2回 朝 (2錠) 夕食後 (1錠) 水曜日 葉酸錠 5mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 木曜日 アスピリン腸溶錠 100mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ランソプラゾール口腔内崩壊錠 15mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 ピタバスタチン錠 2mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後 カルベジロール錠 10mg 1回1.5錠 (1日1.5錠) 1日1回 朝食後 アジルサルタン錠 40mg 1回1錠 (1日1錠) 1日1回 朝食後</p> |
| 入院～退院の経過 | 入院中よりリラグルチド皮下注が導入となり、退院時には自己にて注射可能な状態であった。 |
| 退院後の経過 | かかりつけ医でも退院処方の継続となり、患者持参の残薬も調整することができた。低血糖も起こることがあるとのことだったので、薬局ではブドウ糖を渡し、指導を行った。 |
| 多職種との情報共有の有無 | なし |
| 参考文献 | 特になし |

大阪府からののお知らせ

後発医薬品の供給や、令和3年8月からスタートした「地域連携薬局」や「専門医療機関連携薬局」を府民に周知するパンフレットを作成しました。

下記ホームページに掲載しておりますので、ご活用ください。

<https://www.pref.osaka.lg.jp/yakumu/yakkyokutorikumi/202108nintei.html>



教えて！薬のこと～供給について～

近頃、処方箋で薬をもらうとき、薬の在庫がないと言われたり、これまでの薬と違うものになったりしているけど…。どうなっているの！？

最近、薬を作っている会社のいくつかで、国に認められていない製造方法で作って流通させていたことがわかり、一部、製造をストップしていることがあります。このために、他のメーカーも影響を受け、一部の薬が足りなくなって、届かないケースもあります。

後発医薬品は、いろんな会社が作っているでしょ？他の会社が作ったらいいんじゃない？

他の後発医薬品メーカーも増産するなどして、患者さんに安定して届けられるよう取組んでいます。しかし、残念ながら、十分にカバーできていない薬もあります。

また、新型コロナウイルス感染症やワクチン接種に関係する薬が不足しているケースもあります。

ちゃんと治療が続けられるの心配…

薬剤師にご相談ください。他のメーカーの製品や同じ効き目の薬への切り替えなど、お医者さんとも連携して患者さんの健康を見守ります。

後発医薬品の供給

令和3年8月からスタートした「地域連携薬局」「専門医療機関連携薬局」

大阪府
薬局の認定制度がスタートしました！

こんな希望ありませんか？

今度入院するけど、今飲んでる薬のことや退院後の薬のことを病院とも連携してずっと対応して欲しいな

通院してがん治療を受けているけど、専門医療機関があるように専門的な薬局もあるのかな

対応してくれる薬局を簡単に探したいな

患者さんが安心して治療が受けられるよう、地域の医療・介護の関係施設と連携しながら患者さんを支えていく役割を持つ薬局[※]を認定する制度が始まりました。

※地域連携薬局及び専門医療機関連携薬局

薬剤師に相談しましょう

ジェネリック医薬品のことを聞きたいな

飲み忘れたり、飲みにくい薬があって薬が残ってしまう

入院中に飲んでた薬のことを知りたい

市販薬(OTC 医薬品)は今飲んでる薬と一緒に飲めるの？

自宅で静養しているけど薬のことが気になる

お医者さんに相談したいことがあるんだけど、薬剤師から伝えてくれないかな